

3つのポリシー*省令化 による大学の内部質保証： 課題と展望

*卒業の認定に関する方針
教育課程の編成及び実施に関する方針
入学者の受け入れに関する方針

日本学術振興会
安西祐一郎

教育改革の全体像とその目的

【目的】 少子高齢化とグローバル化のもとで、2020～30年に向け、日本の人材基盤を抜本的に強化するとともに、日本で学ぶ人たち一人ひとりが幸せな人生を歩めるようにすること

【全体像】

1. キャリアパスをシングルパスからマルチパスに転換する教育改革・社会改革(大学入試改革はその一部分)
2. 高等学校と大学にまったく違う学びの場を創ること
3. 大事なのは高大「社」接続
4. 個別高等学校にとっては「殻を破る」ことが最大の課題
5. 個別大学にとっては「卒業要件」の明確化と実践が最大の課題
6. 改革の成就には、教育界と社会の「見えざる壁」(invisible wall)を薄くすることが不可欠
7. 改革の成就には、社会・企業の協力が不可欠(特に教育支援の強化、新卒一括採用慣習の打破)
8. 幕末から明治にかけての「教育維新」に匹敵

喫緊の課題

- 【経済再生】 経済再生をどう実現するか。「モノの生産＝知識の生産」・コモディティ化の先をどう実現するか。
- 【活動・仕事の転換】 多くの人々が働ける社会の実現・雇用の仕組みの改革・生涯学習への改革をどう実現するか、若年人口の激減・高等学校新卒就職者数の激減・労働生産性の低迷・就業構造の劇的な変化にどう対応するか。
- 【社会改革】 情報科学技術を基盤とした、「個が生きる」新しい社会への転換をどう実現するか。（「超スマート社会」（Society5.0）をどう実現するか（*多様性・柔軟性・オープンイノベーション・資金等の好循環・情報科学技術の推進）。*第5期科学技術基本計画（2016-2020）
- 【教育改革】 旧来社会を支えてきた教育をどう乗り越えて、主体性・多様性・協働性を身につける学びの場を実現するか。
- 【時代転換の先を掴む】時代潮流の大転換をどう乗り越えるか。

産業構造・雇用市場の転換から見た これからの人材スキル

- 自分の熟知している分野以外の人々との協働力
- サービス・製品・技術などのライフサイクルの短縮への柔軟な対応力・戦略的思考力・実践力
- 仕事の多様化、個別化への対応力
- 情報技術を援用してビジネスなどの活動を企画・立案・実践する構想力と実践力
- 多様な価値観を受容する力
- 初体験の状況に馴染むことのできる柔軟性
- 急激な変化に適応する力
- チームで活動する力、周囲を巻き込む力
- 他者の心を感じる力
- 学び続ける力
- **自分がワクワクすることを仕事にして他者に貢献する力**

就業構造の試算結果

※2015年度と2030年度の比較

職業	変革シナリオにおける姿	職業別従業者数		職業別従業者数（年率）	
		現状放置	変革	現状放置	変革
①上流工程 経営戦略策定担当、研究開発者等	経営・商品企画、マーケティング、R&D等、新たなビジネスを担う中核人材が 増加 。	-136万人	+96万人	-2.2 %	+1.2 %
②製造・調達 製造ラインの工具、企業の調達管理部門等	AIやロボットによる代替が進み、 変革の成否を問わず減少 。	-262万人	-297万人	-1.2 %	-1.4 %
③営業販売（低代替確率） カスタマイズされた高価な保険商品の営業担当等	高度なコンサルティング機能が競争力の源泉となる商品・サービス等の営業販売に係る仕事が 増加 。	-62万人	+114万人	-1.2 %	+1.7 %
④営業販売（高代替確率） 低額・定型の保険商品の販売員、スーパーのレジ係等	AI、ビッグデータによる効率化・自動化が進み、 変革の成否を問わず減少 。	-62万人	-68万人	-1.3 %	-1.4 %
⑤サービス（低代替確率） 高級レストランの接客係、きめ細やかな介護等	人が直接対応することが質・価値の向上につながる高付加価値なサービスに係る仕事が 増加 。	-6万人	+179万人	-0.1 %	+1.8 %
⑥サービス（高代替確率） 大衆飲食店の店員、コールセンター等	AI・ロボットによる効率化・自動化が進み、 減少 。 ※現状放置シナリオでは雇用の受け皿になり、微増。	+23万人	-51万人	+0.1 %	-0.3 %
⑦IT業務 製造業におけるIoTビジネスの開発者、ITセキュリティ担当者等	製造業のIoT化やセキュリティ強化など、産業全般でIT業務への需要が高まり、従事者が 増加 。	-3万人	+45万人	-0.2 %	+2.1 %
⑧バックオフィス 経理、給与管理等の人事部門、データ入力係等	AIやグローバルアウトソースによる代替が進み、 変革の成否を問わず減少 。	-145万人	-143万人	-0.8 %	-0.8 %
⑨その他 建設作業員等	AI・ロボットによる効率化・自動化が進み、 減少 。	-82万人	-37万人	-1.1 %	-0.5 %
合計		-735万人	-161万人	-0.8 %	-0.2 %

（出所）株式会社野村総合研究所およびオックスフォード大学（Michael A. Osborne博士、Carl Benedikt Frey博士）の、日本の職業におけるコンピュータ化可能確率に関する共同研究成果を用いて経済産業省作成

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/shin_sangyoukouzou/pdf/008_04_00.pdf

経済産業省新産業構造ビジョン中間整理(2016.4)より

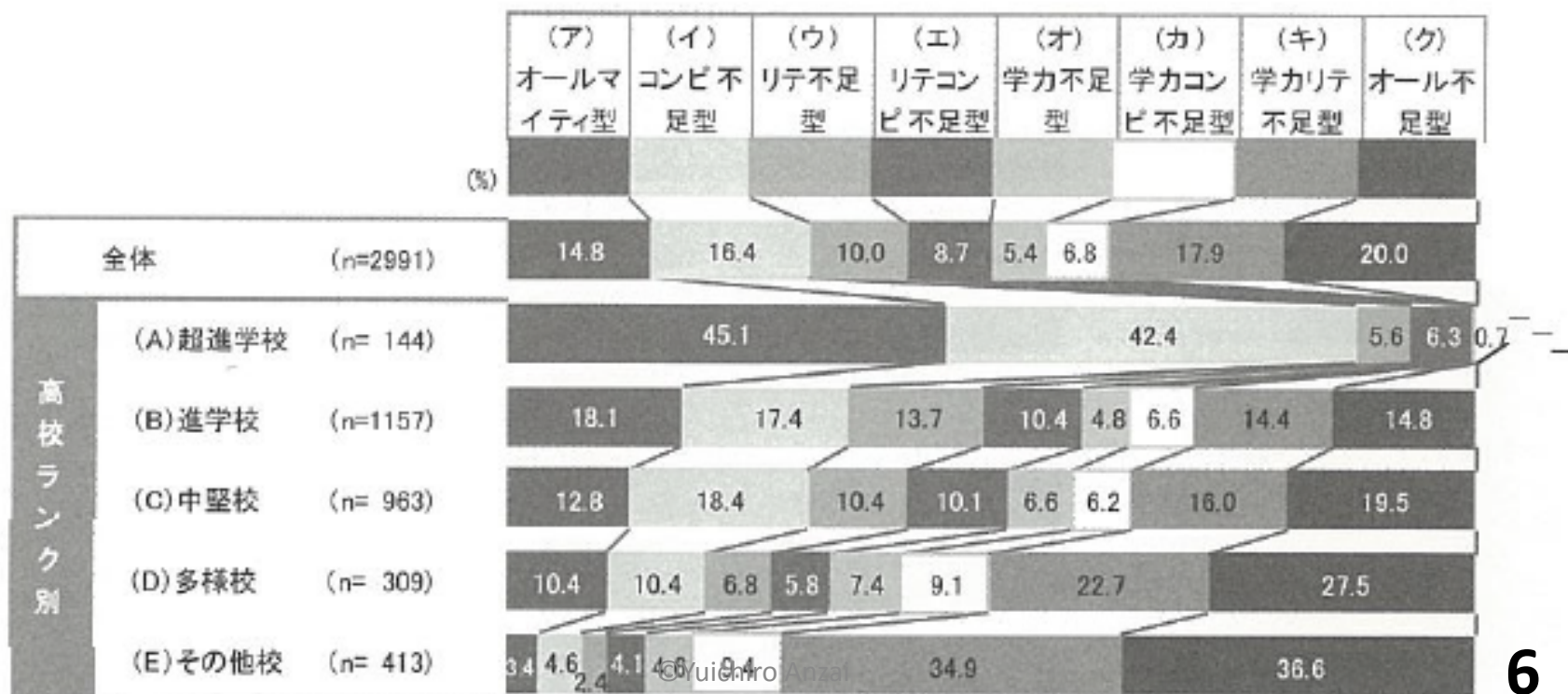
©Yuichiro Anzai

図表 2-1-5 総合スキルタイプの8分類について

教科学力総合	N数	%	リテラシー総合	N数	%	コンピテンシー総合	N数	%
○ 370以上	1,494	49.9%	○ 4~7	1,300	43.5%	○ 3~5	1,439	48.1%
△ 370未満	1,497	50.1%	△ 1~3	1,691	56.5%	△ 1~3	1,552	51.9%
総計	2,991	100.0%	総計	2,991	100.0%	総計	2,991	100.0%

	教科学力総合	リテラシー総合	コンピテンシー総合	タイプ別出現率	
	○=370以上 △=370未満	○=4~7 △=1~3	○=3~5 △=1~3	N数	%
(ア)オールマイティ型	○	○	○	444	14.8%
(イ)コンピ不足型	○	○	△	491	16.4%
(ウ)リテ不足型	○	△	○	298	10.0%
(エ)リテコンピ不足型	○	△	△	261	8.7%
(オ)学力不足型	△	○	○	162	5.4%
(カ)学力コンピ不足型	△	○	△	203	6.8%
(キ)学力リテ不足型	△	△	○	535	17.9%
(ク)オール不足型	△	△	△	597	20.0%
				2,991	100.0%

図表 2-1-23 高校生調査：総合スキルタイプ×高校ランク



高大接続改革の目的と背景

【目的】 時代の大きな転換期にあたって、とくに高等教育と大学教育を、未来に生きる人たちのための「新しい学び」に転換すること。

【背景】

1. 世界では、経済・雇用、また社会・政治・安全保障・科学技術・医療等への観点が20世紀とはまったく異なる時代がひらけている。
 2. 国内では、若年人口の急減(1993年～)、高等学校新卒就職者数の激減(1993年～)、労働生産性の低下(2004年～ G7最下位)が起こり、しかも産業構造・就業構造の転換に対応できていない。
 3. 今の若い世代、子どもたち、これから生まれる子どもたちが生きていく「未来社会と教育の構図」を描かなければならない。
- 2018～2022 第3期教育振興基本計画
 - 2016～2020 第5期科学技術基本計画
 - 2019～2024 高大接続改革

高大接続改革の現状と展望

課題： 十分な**知識・技能**をもち、それを活用できる**思考力・判断力・表現力**を臨機応変に発揮でき、**主体性をもって多様な人々と協力して学び、働く力**が身につく教育の機会をすべての子どもたちが持てるようにするには？

展望： 2019年から「高大接続改革」を開始。

- ① 家庭・子育て・幼小中学校段階の変化
- ② 高校教育改革、学習指導要領の抜本的改訂、高等学校基礎学力テスト(仮称)の導入
- ③ 大学教育改革、個別大学の入学者選抜方法改革、大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の導入
- ④ 職業教育改革
- ⑤ 企業等の採用・処遇等の仕組みの転換
- ⑥ その他

- ① 高等学校教育改革: 受け身の学習から能動的学習への転換
次期学習指導要領改訂 学習方法・学習評価の記述を導入
歴史総合、地理総合、数理探究、公共等の科目導入、英語、
情報等の科目内容更新。
- ② 高等学校基礎学力テスト(仮称)の導入: 高校の多様性に対
応した知識・技能、思考力・判断力・表現力の涵養、生徒自身
の学習改善、学校の指導改善。
- ③ 大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の導入: 個別大学の
入学者選抜における多角的評価に資するよう、十分な知識・
技能、十分な思考力・判断力・表現力などを評価。
- ④ 個別大学における多角的評価による入学者選抜: 受検者の活
動経歴評価方法の改善、高校調査書の改革、面接・集団討論
方法の改善、小論文等の評価方法の改善、大学入学希望者
学力評価テスト(仮称)の導入、大学認証・評価制度の改革。
- ⑤ 大学教育改革: 大学の多様性に対応したディプロマ・ポリ
シー(卒業時の能力)、カリキュラム・ポリシー(教育内容)、アドミッ
ション・ポリシー(入学条件)の一体的実施 大学認証・評価制度の
改革。

高大接続改革へのステップ

1. 中教審「大学教育の質的転換」答申(2012.8)
2. 第2期教育振興基本計画(2013.4-2017.3)
3. 教育再生実行会議 第四次提言(2013.10)「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について」
4. 中教審「高等学校教育・大学入学者選抜・大学教育の一体的改革」答申(2014.12)
5. 高大接続改革実行プラン(文部科学省策定)(2015.1)
6. 高大接続システム改革会議「最終報告」(2016.3)
7. 3ポリシーに関する文科省通達・ガイドライン配布(2016.3)
8. 中教審 次期学習指導要領に向けての審議まとめ素案(2016.8.1)
9. 中教審 次期学習指導要領に向けての審議まとめ(2016年中)同答申(2017.3)
10. 高大接続改革実施方針(2017.3)
11. 第3期教育振興基本計画(2018～2023)
12. 高等学校基礎学力テスト(仮称)(2019; プリテスト2017～)
13. 大学入学希望者学力評価テスト(仮称)(2020; プリテスト2018～)
14. 新学習指導要領(小2020, 中2021, 高2022～2024)

3ポリシーに関する 省令改正

文部科学省令第十六号
(平成二十八年三月三十一日)
学校教育法施行規則
の一部を改正する省令
(平成二十九年四月一日施行)

改 正 後		現 行
第百六十五条の二 大学は、当該大学、学部又は学科若しくは課程（大学院にあつては、当該大学院、研究科又は専攻）ごとに、その教育上の目的を随来えて、次に掲げる方針（大学院にあつては、第三号に掲げるものに限る。）を定めるものとする。 一 卒業の認定に関する方針 二 教育課程の編成及び実施に関する方針 三 入学者の受入れに関する方針 2 前項第二号に掲げる方針を定めるに当たつては、同項第一号に掲げる方針との一貫性の確保に特に意を用いなければならない。		（新設） 第百七十二条の二 大学は、次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする。 一 大学の教育研究上の目的に関すること 二 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること 五 九 （略）
2・3 （略）		2・3 （略）

（別添2）
学校教育法施行規則の一部を改正する省令（平成二十七年文部科学省令第十六号） 新旧対照表
◎学校教育法施行規則（昭和二十二年文部省令第十一号）

（傍線部分は改正部分）

「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー), 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー) 及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー) の策定及び運用に関するガイドライン

平成28年3月31日
中央教育審議会大学分科会大学教育部会

【参考】 高大接続システム改革「最終報告」
平成28年3月31日 高大接続システム改革会議

大学教育改革の一環 ⇒ 社会との関係づけ

日本経済新聞

2016年(平成28年)5月2日(月曜日)

19面

大学の素顔 見えやすく

卒業時の学生の能力、それを達成するための授業、そのためにどんな学生を受け入れるか。各大学は、それぞれの理念や特色をもとに、これら3つの方針(ポリシー)の策定を進めている。受験生にとっては、学びたい内容や進路を照らし合わせやすくなり、偏差値だけでは見えない大学の価値が期待されている。

文部科学省は3月末に公表したガイドラインで、3ポリシーについて「大学に関心をもち、関係者が十分に理解できるような内容や表現」とするよう求めた。想定する関係者として、入学希望者や保護者だけでなく、高校関係者や産業界なども併記。文科省の担当者は特にAPについて「偏差値以外の大学の価値を高校などに伝える意味がある」と話す。

の教育力に合った成果を示し、学生の理解が得られれば、偏差値以外の大学選びが広がっていくのではないかと期待している。都内の私立進学校の校長は「APで大学入試センター試験の得点の目安などを振り込む大学は少ないだろうが、横並びの内容では差別化が難しい」と指摘。「いくら高い目標や方針を掲げて、実際の教育内容が伴わなければ意味がないので、達成度もできるだけ開示すべきだ」と、各大学の対応に注目している。(藤正人)

文部科学省は3月末に公表したガイドラインで、3ポリシーについて「大学に関心をもち、関係者が十分に理解できるような内容や表現」とするよう求めた。想定する関係者として、入学希望者や保護者だけでなく、高校関係者や産業界なども併記。文科省の担当者は特にAPについて「偏差値以外の大学の価値を高校などに伝える意味がある」と話す。

分野や関心をいかにせるかの視点で大学が選べるようになる」と期待。その上で「グローバル人材を育てる」といった抽象的な表現ではなく、卒業時に英語外部試験でどのレベルまで達成する

お断り。月曜日の大学側は次週から18歳クラス面に表替えします。池田朝の大阪山崎通。若者たちへ「College Career」から「は引き継ぎ18歳クラス面掲載します。

3ポリシーを最大限に活用し、卒業生の能力を高める。そのためにどんな学生を受け入れるか。各大学は、それぞれの理念や特色をもとに、これら3つの方針(ポリシー)の策定を進めている。受験生にとっては、学びたい内容や進路を照らし合わせやすくなり、偏差値だけでは見えない大学の価値が期待されている。

東京都立の進学校の校長は「3ポリシーがきちんと示されれば、生徒はどの学べば自分の得意分野や関心をいかにせるかの視点で大学が選べるようになる」と期待。その上で「グローバル人材を育てる」といった抽象的な表現ではなく、卒業時に英語外部試験でどのレベルまで達成する

お断り。月曜日の大学側は次週から18歳クラス面に表替えします。池田朝の大阪山崎通。若者たちへ「College Career」から「は引き継ぎ18歳クラス面掲載します。

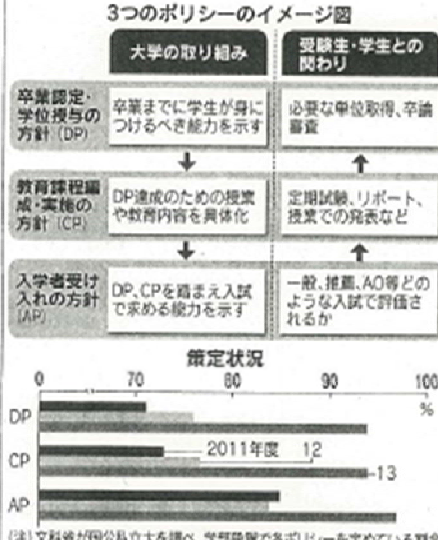
卒業時の能力 教育内容 入学条件

3つの方針 策定進む

・経済学の基礎科目を履修し、より高度な知識と応用力や外国語能力を身につけるための教育を行う。など。文科省は「3ポリシー」を策定する。APで入学を求めている大学は、高校で習った英語や外国語などの知識があるだけでなく、「考えを論理的に表現できること」などが盛り込まれている。

大阪大は2013年に大学全体、14年には学部・研究科別の教育方針などを策定。各プログラムは3ポリシーはこれらと連動しつつ、特定の学問分野や教育体制が分かるよう工夫したという。とりまとめに当たった川崎大教授(経済学教育)は「この学部に入れば

卒業時の学生の能力、それを達成するための授業、そのためにどんな学生を受け入れるか。各大学は、それぞれの理念や特色をもとに、これら3つの方針(ポリシー)の策定を進めている。受験生にとっては、学びたい内容や進路を照らし合わせやすくなり、偏差値だけでは見えない大学の価値が期待されている。



大学教育 改革の一環

個別の大学は何を
目指すべきか？



高等学校と大学は
まったく異なる存在



目指すべきは
「大社接続」

大学入試 改革

大学入試が変わる。文部科学省の有識者会議が3月末にまとめた最終報告では、大学入試センター試験に代わって2020年度から思考力や表現力を重視した新テストを実施し、記述式問題も導入する方針を打ち出した。各大学でも面接や高校の調査書を通じて、個性や意欲を評価する選抜が広がる。新しい入試への対応を迫られる教育現場の取り組みを探る。

中高一貫の進学校として知られる東京都立小石川中等教育学校(文京区)には昨年度、全国の高校や教育委員会から11回の視察があった。目的は生徒自ら課題を見つけ、研究する学習活動「探究」の見学だ。センター試験に代わる新テスト(大学入学希望者学力評価テスト(仮称))で重視する思考力や表現力の育成にもつながると注目されている。

5月上旬の放課後、約20人の生徒が実験室で、ロボットの動きを制御するコンピュータプログラムの開発や化学反応で発光するライトの研究などに打ち込んでいた。単3電池のエネルギー量を調べていた5年生(高校2年)の秋元翔吾16は「試行錯誤しながら自分で立てた仮説を立証し、リポートにまとめられるようになった。大学でも役立つと思う」と笑顔を見せた。同校の探究活動は10年前、文系・理系に偏らない思考力を育成しようとした。3、

思考力・表現力育成に磨き

大学入試センター試験と
新テストの比較

年 度	2019年度 まで	20年度～ 23年度	24年度～
名 称	大学入試 センター 試験	大学入学希望者学力 評価テスト(仮称)	
対 象 (現在の学年)	中3まで	中2～小5	小4から
出題方式	マーク シート の選 択式	マークシート の選択式+短 文記述式(国 語、数学)	コンピュータ を使った選 択式+長文記 述式
実施回数 ・時期	年1回 ・1月	「選択式」と「記述式」を 同時に実施するか、別日程 で実施するか検討	年1回 年複数回実施 を検討
成 績	1点刻み	「記述式」はランクごとの 段階別評価	

(文部科学省の有識者会議
の最終報告を基に作成)



ロボットを動かすプログラムの開発
に取り組む生徒たち(5月上旬、東
京都立小石川中等教育学校で)

「探究型」授業 効果じわり

4年生は総合学習の時間など
に独自の研究を行い、他の学
年も放課後などに自主的に残
って、研究を続けている。

茨城県立竹園高校(つくば
市)の国際科でも2年生が週
1回、探究的な学習を行う。
テーマは「漫画の経済効果」
から「古米を使ったバイオマ
ス発電」まで幅広く、シンガ
ポールの大学を訪問する研修

旅行の際には、一部の生徒が
研究成果を英語で発表してい
る。

取り組みは国際社会で活躍
する人材を育てようと8年前
にスタートした。当初は「受
験の妨げになるのでは」との
意見もあったが、導入前は約
150人だった国公私立大の合
格者数は5年間、約17
00～1900人で推移してい
る。

新テストでは、従来のマー
クシートの選択式を思考力を
重視した内容に改め、一部に
記述式問題も導入する。高校
の授業を探究型などの能動的
な学習に改善することも目的
の一つだ。「改革の方向性を
みても、やってきたことは間
違ひではなかった。竹園高
校の井坂博子校長は胸を張
る。

通信教育や全国模試を展開
する「ベネッセコーポレーシ
ョン」は昨秋、新テストを見
据え、高校2年生約7500
人を対象に記述中心のテスト
を実施した。参加した首都圏
のある公立高校では、上位ク
ループの生徒の成績が従来型
の模試に比べて悪かった。校
長は「暗記は得意でも自分の
考えを整理して記述する訓練
が足りない」と実感した。

文科省が公表した新テスト
の記述式問題例では、交通事
故に関する複数の統計資料を
読み解き、分析結果を文章で
表現する国語の問題などが示
された。この公立高校はセン
ター試験で「75%」の得点を
目指しているが、進路指導の
担当教諭(53)は「公表された
問題の難度では、今のうちの
生徒は30%程度しか取れな
い。指導を工夫するしかない」
と話す。今後は生徒が課題研
究やグループ討議などを行う
「アクティブ・ラーニング」
を充実させる予定だという。

受験産業では新テストへの
対策が進む。通信教育大手の
Z会グループは今年、中高生
向けにアクティブ・ラーニン
グの教室を新設。大学入試問
題の解説資料を毎年発行する
旺文社は、思考力を問う入試
問題に「思考力」マークをつ
ける試み始める。

記述式 採点などに課題

文科省は2017年度初めまでに新テストの具体的な
実施内容を決めるが、記述式問題の導入には採点な
どの課題も多い。

文科省の試算では、国語と数学に記述式を取り入
れ、受験者数が53万人に上った場合、1日800人が
採点しても、解答の文字数に応じて20～60日間を要
する。そのため、従来のマークシート式と記述式の
テストを別日程で行う案も検討されている。

大手予備校「同合塾」の模試担当者は「大学入試
は公平、公正が大前提。採点要員を確保し、採点の
精度を高めるのは容易ではない」と指摘する。

高校側にも戸惑いが広がる。20～23年度は40～80
字程度の短文記述式、24年度以降は200～300字程度
の長文記述式を導入予定だが、実施日程や難度など
不透明な点も多く、都内の進学校の教諭(55)は「新
テストの狙いは理解できるが、現実にはどんなもの
になるのかイメージがわからない」と話す。

©Yuichiro Anzai

※「スクールデイズ」休みました。

※ご意見は 〒100-8055 読売新聞東京本社教育部(ファクス 03-3217-9908、メール kyouiku@yomiuri.com)

論点

「考える楽しさ」大学入試改革



安西 祐一郎氏
高大接続システム改革会議座長
元・日本経済新聞編集長、立教
大学学長、読売新聞編集長、大学
入学センター長、現職

「考える楽しさ」大学入試改革。大学入試センター試験に代わりより1年早く導入を予定している「大学入学共通テスト」の記述式問題のイメージを昨年秋に公開した。対策は、東洋・洋書方法、ロシアについても関係者も注目している。3月に最終発表が予定されている。今回は、公開された問題の、国語・数学・英語の3教科について、具体的な内容、対策、そして、教育関係者の意見、コメントを掲載する。

判断・表現力を問うものである記述式問題の発表は、ある程度予想されていた。考えさせる問題がある。1400字の記述を求め、①今後、公立大学入試の採用は同様の記述式問題を採用する。②記述式問題の採用は、大学入試の改革の一環として、国語・数学・英語の3教科について、具体的な内容、対策、そして、教育関係者の意見、コメントを掲載する。

「考える楽しさ」大学入試改革。大学入試センター試験に代わりより1年早く導入を予定している「大学入学共通テスト」の記述式問題のイメージを昨年秋に公開した。対策は、東洋・洋書方法、ロシアについても関係者も注目している。3月に最終発表が予定されている。今回は、公開された問題の、国語・数学・英語の3教科について、具体的な内容、対策、そして、教育関係者の意見、コメントを掲載する。

3ポリシーと入試の関係

読売新聞「論点」
←2015.1.29朝刊
2016.1.6朝刊→

©Yuichiro Anzai

論点

真の学力育てる試験に



安西 祐一郎氏
中央教育審議会会長、日本学術振興会理事長、前
慶応義塾長、大学
学長、専門知識科
学、情報科学。68
歳。

中央教育審議会会長、日本学術振興会理事長、前慶応義塾長、大学学長、専門知識科学、情報科学。68歳。

昨年末に発表した中央教育審議会の答申は、従来の大学入試改革とは次元が異なる内容である。高校と大学教育のあり方、両者をつなぐ大学入学者選抜の一体的改革を求めた。

答申の柱は①高校・大学教育の見直し②個別大学の入学選抜での多角的評価③高校段階の基礎学力を評価する「高等学校基礎学力テスト」(仮称)の新設④現行の大学入試センター試験の廃止と「大学入学希望者学力評価テスト」(同)の新設からなる。

目指すのは、知識・技能と思考力・判断力・表現力を養える主体的に多様な人々

と協働できる「真の学力」の育成だ。グローバル化・多様化した世界、地方の活性化が急務の日本で若者が幸せに生きる上で、これが不可欠の力だと思ふ。

日本ではこれまで学力の育成に取り組んできた。だが、小中学校教育の充実が高校や大学につながっていない。一つの要因は、18歳人口の減少と大学進学率

の急上昇にあった。生徒の獲得競争を有利に進めるため、教育目標を進学実績の向上に置く高校が増え、難関大合格を目指して知識・技能を重視する進学校がある。一方で大学が多様な選抜方法を設けて定員確保に乗り出し、勉強しなこともないような生徒を

応用まで幅広い難易度の問題を用意し、生徒は複数の回を受けることで、自分で学習の進み具合を確認できるようになる。教師も指導改善に生かせる。

他方、「大学テスト」の構想は、従来の入試を「大学教育を受けるために必要な能力が備わっているかを

確認するテスト」に変えるものだ。複数教科を合わせ、た合教科型の試験問題も作り、知識・技能とともに思考力・判断力・表現力を測る。例えば、長文の日本語読解の要約を2500ワードで要約せよ、という問題にすれば、日本語の力と英語の知識が問える。

各大学はどんな学生を求めるかを具体的に示し、主

体性や協働性を問う多角的評価による選抜をしてほしい。入学後は、学生が自ら課題を設け、多様な人と議論して解決していく能動的な学びを促す必要がある。

改革に向けて課題は山積している。だが、少子化とグローバル化が進む中、次世代を育成する教育改革は待たないである。

答申をまとめるに当たって常に念頭に置いていたのは、高校卒業後に就職する生徒のことだ。経済的事情で進学を断念する若者が大勢いる。社会に出て主体性や協働性を働いた若者に進学を促すことも「大学テスト」で可能になる。それこそ、一人ひとりの子どもを大切に育てる教育の原点だと思っている。

(聞き手・松本美奈、「読売教育ネットワーク」ウェブサイトに詳報)

大学入試改革

2008.12.24 中教審「学士課程教育」答申

改革の実行に当たり、もっとも重要なのは、各大学が、教学経営において、「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」、そして「入学者受入れの方針」の三つの方針を明確にして示すことである。これらは、将来像答申で言及した「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」にそれぞれ対応する。大学の個性・特色とは、そうした方針において具体的に反映されるのである。

2012.8.28 中教審「大学教育の質的転換」答申

成熟社会において学生に求められる能力をどのようなプログラムで育成するか（学位授与の方針）を明示し、その方針に従ったプログラム全体の中で個々の授業科目は能力育成のどの部分を担うかを担当教員が認識し、他の授業科目と連携し関連し合いながら組織的に教育を展開すること、その成果をプログラム共通の考え方や尺度（「アセスメント・ポリシー」）に則って評価し、その結果をプログラムの改善・進化につなげるという改革サイクルが回る構造を定着させることが必要である。

2014.12.22 中教審「高大接続改革」答申(1)

各大学が個別に行う入学者選抜（以下「個別選抜」という。）については、学力の三要素を踏まえた多面的な選抜方法をとる¹⁴ものとし、特定分野において卓越した能力を有する者の選抜や、年齢、性別、国籍、文化、障害の有無、地域の違い、家庭環境等にかかわらず多様な背景を持った学生の受け入れが促進されるよう、具体的な選抜方法等に関する事項を、各大学がその特色等に応じたアドミッション・ポリシーにおいて明確化する。このために、アドミッション・ポリシー等の策定を法令上位置付けるとともに、大学入学者選抜実施要項を見直す。 p.10-11

大学において育成すべき力を学生が確実に身に付けるためには、大学教育において「教員が何を教えるか」よりも「学生が何を身に付けたか」を重視し、学生の学修成果の把握・評価を推進することが必要である。

このため、各大学においては、大学教育で身に付ける力等を明確にした上で、ナンバリングの導入等も含め、個々の授業科目等を越えた大学教育全体としてのカリキュラム・マネジメントを確立し、教育課程の体系化・構造化を行うことが求められる。このような各大学の取組を推進するためには、下記3. ①に示すとおり、アドミッション・ポリシーと併せて、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針の一体的な策定を法令上位置付けることが必要である。 p.20

2014.12.22 中教審「高大接続改革」答申(2)

各大学における個別選抜改革を推進するためには、各大学の入学者選抜の設計図であるアドミッション・ポリシーの充実が不可欠であり、各大学においては、それぞれの強み、特色や社会的役割に応じたアドミッション・ポリシーが策定されることが必要である。このため、国は、各大学におけるアドミッション・ポリシーの策定について法令上位置付けるよう検討すること。

その際、各大学においては、大学教育を通じて学生にどのような力を身に付けさせて卒業させるか、そのためにどのような教育を実施するか、教育を実施するに当たってどのような学生を受け入れるのかという一貫した観点から、アドミッション・ポリシーと合わせて、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針を策定することが必要であることから、これらの一体的な策定を法令上位置付けるよう検討すること。

また、各大学の個別選抜改革の取組に対する評価が適切に行われることも必要であることから、国は、法令で定められている認証評価の評価項目に入学者選抜を明記するよう検討すること。

p.24

2016.3.31 高大接続システム改革会議「最終報告」

2. 大学教育改革	36
（1）大学教育改革の基本的な考え方	36
（2）三つの方針に基づく大学教育の実現のための方策	36
ア 三つの方針の重要性	36
イ 三つの方針の策定に関する位置付けの強化	37
ウ 三つの方針に基づく教学マネジメントの確立	38
（3）認証評価制度の改革	40

3ポリシーの策定・運用に関するガイドラインより

3ポリシーの基本的考え方 「ガイドライン」p.3

ディプロマ・ポリシー	各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。
カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。
アドミッション・ポリシー	各大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素」※についてどのような成果を求めるか）を示すもの。 ※（1）知識・技能，（2）思考力・判断力・表現力等の能力，（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

3ポリシーの 一体的策定 の意義

「ガイドライン」p.3-4

◇大学にとっての意義

- ・ 大学が、自らの定める目標に照らし、自大学における諸活動について点検・評価を行い、その結果に基づいて改革・改善を行い、その質を自ら保証する営み（内部質保証）を教育活動において確立するための指針となる。
- ・ 体系的で組織的な大学教育の実現に向け、これに関わる全ての教職員が、どのような教育を行い、どのような人材を輩出するのかを共通理解し、連携して取り組むことを可能とする。
- ・ 大学の持つ資源の戦略的・重点的な配分の企画立案、実施に効果的に活用できる。
- ・ 高等学校卒業生だけでなく、留学生や社会人を含め、これまで以上に多様な学生を受け入れるに当たり、大学がどのような個性・特色、魅力を持ち、どのような有為な人材を育成できるかということを対外的に示すことができる。

◇入学希望者・学生及びその保護者、高等学校関係者にとっての意義

- ・ 大学への入学希望者や学生、保護者、高等学校関係者等にとって、三つのポリシーは相互のコミュニケーションを改善し、接続を円滑化する上で大学からの重要なメッセージとなる。
- ・ 具体的には、例えば、入学希望者にとっては、当該大学でどのような教育研究が行われているのかをあらかじめ認識し、入学後の学修方法・学修過程や卒業までに求められる学修成果についてあらかじめ見通しを持ち、学びたい内容に照らして大学を選ぶことが可能となるとともに、大学が初等中等教育段階におけるどのような学習成果を求めているのか、入学までに何を身に付けなければならないのかが明確になる。
- ・ 学生にとっては、自らの学ぶ教育課程の目標や構造などを十分に理解した上で、個々の学修活動に自覚的に取り組むことで、学問に主体的に向き合い、より密度の濃い学修成果を得ることが可能となる。
- ・ また、高等学校等において、個々の大学の強みや特色等を踏まえ、生徒一人一人の将来目標を実現するという観点からの進路指導が促進される。

◇社会にとっての意義

- ・ 大学がどのような教育を行っているかが可視化されることにより、社会（地域社会、国際社会、産業界等）と大学との間で育成すべき人材像の共有や相互に連携した取組が可能になり、大学と社会との接続や相互の協働が改善される。

3ポリシーに関する留意事項

「ガイドライン」p.6より抜粋

1. 総論

- 3ポリシーを一貫性・整合性あるものとして策定。
- 様々な関係者が十分理解できる内容・表現を用いて学内外に積極的に発信。

2. ディプロマ・ポリシー

- どのような学修効果をあげれば卒業できるのかを明確化。
- 「何ができるようになれば」卒業できるのかを明示。
- 社会の顕在・潜在需要も踏まえる。

3. カリキュラム・ポリシー

- ディプロマ・ポリシーが実効をあげられる教育課程編成、学修方法・学修評価の在り方を具体的に提示。
- 初年次・教養・専門・キャリア教育など、様々な観点から体系的な教育課程を構築。
- 初年次教育は、多様な入学者が自分で学修計画を立てて主体的な学びを実践。

4. アドミッション・ポリシー

- 上記2ポリシーが実効をあげられるようにする。
- 「学力の三要素」を念頭に置く。
- 入学前に身につけておくべき多様な能力、入学後に身につけられると考えられる能力など、多様な学生を評価できる入学者選抜の在り方を明示。

3ポリシーに基づく、入学者選抜及び体系的で組織的な教育の実施

「ガイドライン」p.7-8

- ・ アドミッション・ポリシーを具現化し、学力の3要素を多面的・総合的に評価するための適切な評価方法の活用
- ・ 多様な背景を持つ学生の受入れに向けた多角的な選抜方法の工夫
- ・ 地域社会、国際社会、産業界等の社会との接続、大学院教育との接続等を見通したカリキュラム編成
- ・ カリキュラムを構成する授業科目の目標、内容、教育方法、評価方法等を記載したシラバスの作成と組織的なチェックによる、各科目間の関係や内容の整合性、評価基準や評価方法等の確認、及び教員間や教員と学生間での共有化
- ・ カリキュラム・ポリシーを具体化し、可視化して共有するためのカリキュラム・マップや履修系統図の活用
- ・ ナンバリングの活用等によるカリキュラムの体系性や国際通用性の担保
- ・ 開設授業科目数の精選、履修科目の登録上限（CAP制）の設定など、教員の授業内容の充実や学生の学修時間の増加による単位制度の実質化のための取組の充実
- ・ 学生の能動的な学修の充実に向けた少人数のグループワーク、集団討論、反転授業等の学修方法の充実、事前事後の学修課題の充実
- ・ 学生の主体的な学修を促すための教材の開発、学修支援の充実
- ・ GPA⁴の進級判定・卒業認定及び学修支援への活用
- ・ ラーニング・コモンズや図書館など、学生の能動的学修を可能とする環境の整備
- ・ 留学、インターンシップ、フィールドワーク等のプログラムの充実

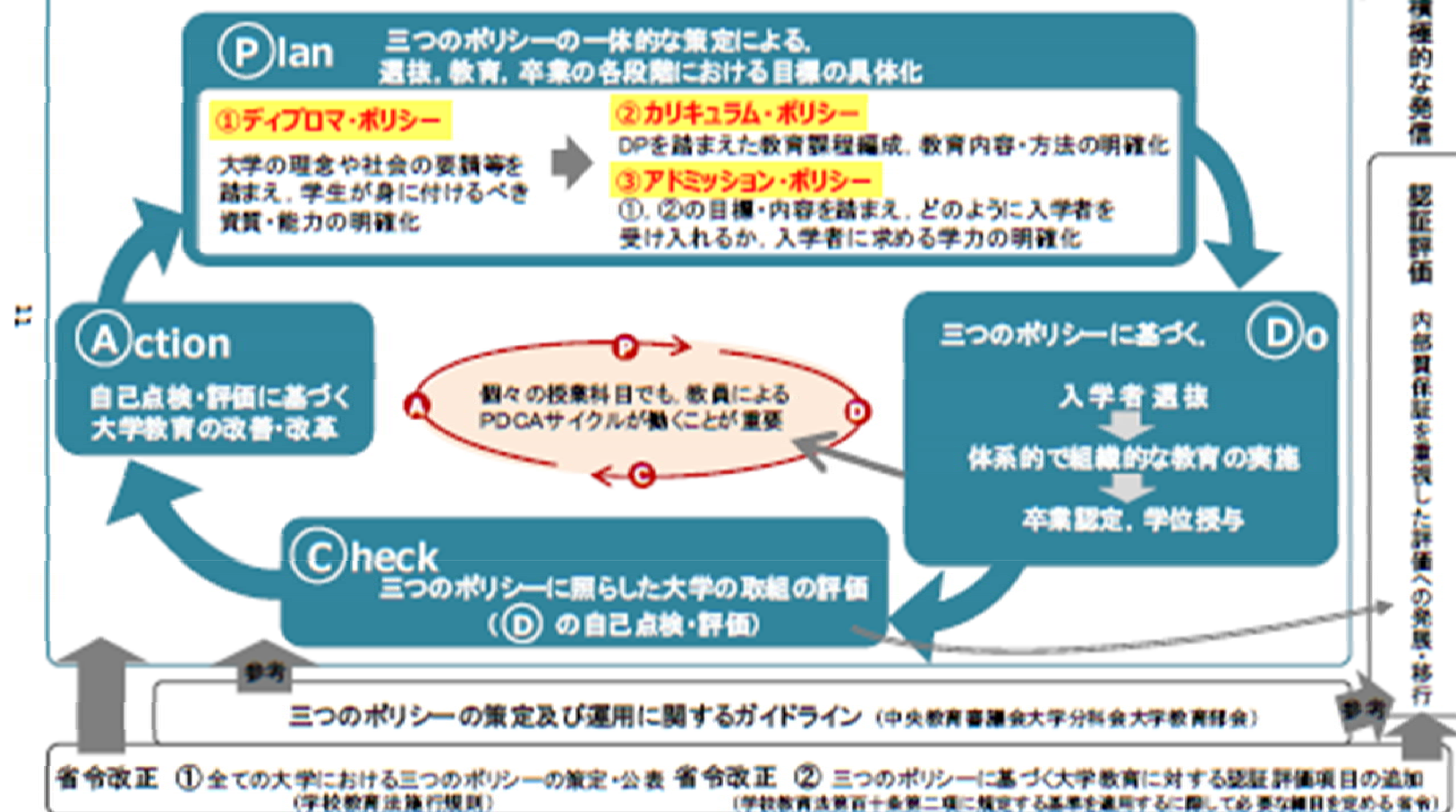
- ・ 学修成果の具体的な把握・評価方法（ループリック，アセスメント・テストのような直接的な方法，学修行動調査のような間接的な方法等），より効果的な公示方法等の開発・実践
- ・ 学修ポートフォリオの活用など個々の学生による学修履歴の記録，振り返り，学修デザインの支援

- ・ ファカルティ・ディベロップメント（FD），スタッフ・ディベロップメント（SD）の充実
- ・ 教員の教育活動に関する評価の充実とその結果の処遇等への反映
- ・ 教学マネジメントに関わる専門的職員の職務の確立・育成・配置
- ・ ティーチング・アシスタント（TA）等の教育支援スタッフの充実

「三つのポリシー」に基づく大学教育改革の実現(イメージ)(案)

三つのポリシー … 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者の受入れ方針(アドミッション・ポリシー)

＜三つのポリシーの策定単位レベルの内部質保証のためのPDCAサイクル＞



参考資料2 (審議の過程で参考としたもの)

3ポリシーについて：A大学B学部C学科の3ポリシーを例として

1. ディプロマポリシー

A 知識・理解

- 理論的・構造的視点から、今日の経済社会の動きについて説明できる。
- 歴史的・実証的視点から、産業の消長について説明できる。
- 経営学や会計学の視点から、企業活動の実態とあるべき姿等について説明できる。

B 技能

B-1 専門的能力

- 現代経済社会が抱える問題を理論的・構造的視点から把握することができる。
- 現代経済社会の問題を分析し、問題解決の企画に取り組むことができる。
- 産業の消長を歴史的・実証的に分析することができる。
- 産業の将来動向を予測し、望ましい経済社会のための産業政策の企画に取り組むことができる。
- 健全な企業活動が営まれるための知識を修得し、それを阻害する問題がある場合には、経営学的・会計学的能力を駆使して、これに対処できる。

B-2 汎用的能力

- C学の基礎理論と幅広い教養、豊かな現実感覚と国際性を身につける。
- 複雑化し多様化する現代経済社会が直面する諸問題に的確に対処し、その解決策を見出す能力を養う。
- 現代経済社会が抱える問題を歴史的・構造的視点から分析する能力、および、問題を発見し解決する能力を養う。
- 地域に根付く企業活動の国際的展開に対応しうる企画・創造力を養う。

C 態度・志向性 Valuing and Quality of Mind

- 世界的な視野と自立的な学習及び実践力を有し、高い専門性を備える。
- 国際的に活躍するとともに、自身が属するさまざまなコミュニティの発展に貢献できるポテンシャルを持つ。
- アクティブ・ラーナーとしての自立的な学習と実践の能力を持つ。

2. カリキュラムポリシー

C学科カリキュラムマップ (1年次前期～4年次後期)

- 教育プログラム

C学科は、体系的にC学を学ぶことができるカリキュラムを講義系科目として提供するとともに、1年から4年までのすべての学年に少人数の演習系科目を配置することによって、きめ細かな学習サポートも併せて行っています。

1年次においては、全員が基幹教育科目のB学入門を履修して専門の基礎を学ぶとともに、基幹教育セミナーに参加することで大学での学び方に触れます。2年次では、C学の基礎を学ぶ上で重要な科目群(B1、B2、B3、B4、B5、B6等々)を、基本科目として体系的に履修します。またC学基本演習では、Bの専門に即した演習科目履修のための基礎固めを行います。2年次からは外国書講読の履修も可能となります。そして3年次から4年次にかけては全員がC学演習に参加しながら、各人の興味関心にもとづいて選択必修科目および自由選択科目の履修を進めます。

3. アドミッションポリシー

- 教育理念

本学科では、C学の基礎理論と幅広い教養、豊かな現実感覚と国際性を身につけることによって、複雑化し多様化する現代の経済社会が直面している諸問題に的確に対処し、その解決策を見出していける人材を養成することを目標としています。

- 教育プログラム

本学科の教育課程は次の四つの点に配慮して提供されています。まず、基幹教育科目や基本科目といった基礎的教育からはじまって、専門科目へと発展する積み上げ型の科目編成によって、体系的な履修が可能であるように配慮しています。次に、少人数教育を重視し、1年次の基幹教育セミナー(必修)、2年次の基本演習、3-4年次の演習(必修)など、各年次で少人数教育を受けることができます。さらに、3年次の演習選択時に、「X分析」「Y分析」「Z分析」の三つの系のいずれかに学生は属しますが、それによって、多様な問題関心と卒業後の進路に即した科目を体系的に履修できるように工夫されています。例えば、「X分析」系では、X1、X2、X3、X4、X5、X6などの科目群を、「Y分析」系では、Y1、Y2、Y3、Y4、Y5、Y6などの科目群を、「Z分析」系では、Z1、Z2、Z3、Z4、Z5、Z6などの科目群を体系的に履修できます。最後に、大学院への進学を奨めるために、学部4年生を対象に大学院開講科目の一部を「学部特別専門科目」として学部に開放しています。ここで修得した単位は、大学院に進学した場合は大学院の単位として認められます。

- **求める学生像(求める能力、適性等)**

以上の特色ある教育課程をもっていますので、学生はおのずと自己の問題関心に応じた体系的な科目履修が可能です。その結果、現実感覚や問題解決能力、外国語能力に基礎付けられた国際性、さらには、幅広い教養を養うことができます。先端的科学技術の急速な発展や経済のグローバル化・市場経済化の進展などによって大きな変容を遂げつつある現代の経済社会に深い関心をもち、C学の基礎理論や幅広い教養を身につけ、さらに、豊かな国際感覚を磨くことを通じて、人類が直面している種々の問題に積極的に取り組んでいこうという気概をもった皆さんが、C学科に興味をもち、入学されることを期待しています。

そのために高校では、基礎的科目としての国語・数学・外国語の諸科目をしっかりと勉強するだけでなく、地歴・公民の諸科目をできるだけ満遍なく学習することが重要です。また理科の諸科目も経済発展と密接不可分な科学・技術を理解するために学習することが求められます。

- **入学者選抜の基本方針(入学要件、選抜方式、選抜基準等)**

選抜方法は以下のとおりです。一般入試の前期日程の試験では、大学入試センター試験と個別学力検査を課しており、個別学力検査では、国語・数学・外国語を課しています。一般入試の後期日程試験では、大学入試センター試験と、小論文試験を課しています。小論文試験では、英文を主とする出題によって、英語の学力及び社会・文化に関する理解力と思考力をみます。

国立大学における個別入学者選抜改革の進展（文科省資料）

- 国立大学では、第三期中期目標期間に開始・実行する取組として、「優れた資質・能力を有する多様な入学者の確保と受入れ環境の整備」を掲げている。

「国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン」

（平成27年9月14日：一般社団法人国立大学協会）（抜粋）

ポイント1：優れた資質・能力を有する多様な入学者の確保と受入環境の整備

- 確かな学力とともに多様な資質を持った高等学校・高等専門学校卒業者を受け入れる。
（例）大学は、多面的・総合的な評価を含み、個々の大学のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに沿って学修をすすめることができる者を選抜できるように入試改革を推進するとともに、推薦入試、AO入試、国際バカロレア入試等の導入を拡大する。

【国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン 工程表】

【ポイント1】
優れた資質・能力を有する多様な入学者の確保と受入環境の整備

確かな学力とともに多様な資質を持った高等学校・高等専門学校卒業者を受け入れる。

個々の大学のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの確認、整備（※～28年度）

高大接続改革を先導する大学教育改革：
教養課程を含む入試改革後のためのカリキュラム整備（人社系を最大限に活用しつつ）（※～平成30年度）

入試改革：
推薦入試、AO入試、国際バカロレア入試等の拡大（入学定員の30%を目標）個別入試における面接、調査書の活用等（準備から実施へ）（※～平成33年度）

各大学の入学者選抜改革の事例（私立大学）（文科省資料）

早稲田大学 入試改革の方向性と展開

平成25年度に「入試開発オフィス」及び「入試開発検討会」を設置。さらに、翌年（平成26年）4月には「入学者選抜オフィス」を設置し、改革に向けた体制構築を行う。

平成29年度入試から、文化構想学部（70名）、文学部（50名）で「一般入試（英語4技能テスト利用型）」を導入。また、人間科学部で、科学への関心と思考力・論理性・論述力・表現力を重視する「公募制学校推薦入試（FACT選抜）」を導入。

平成30年度入試から、地域への貢献に高い志を持つ人材を対象とした「新思考入試（地域連携型）」を導入。学力型AO入試として全学的に実施予定。

関西学院大学「高大接続センター」の設置

平成27年度に「高大接続センター」を設置。
平成28年度入試から高大連携・入試改革の取組を実施。

【SGH、SSH等公募推薦入試】 【英語外部検定試験の活用】

SGH、SSHなどの高等学校における知識・技能の活用を図る課題研究の取り組みを多面的・総合的に評価する入学試験を実施。

全学部で、英語外部検定試験のCEFRのB2レベルを出願資格とし、各学部が指定するセンター試験の英語以外の科目の得点をもって合否判定。

上智大学「TEAP利用入試」の展開

平成27年度から導入されている、上智大学と日本英語検定協会が共同開発した「アカデミック英語能力判定試験（TEAP）」を利用する入試。

⇒TEAPのスコアが基準点に達していれば出願可能。大学が実施する個別試験においては英語科目は課さない。

基準点の例：法学部 国際関係法学科 260点
外国語学部 英語学科 300点

平成28年度入試から、一部学科において4技能のスコアを利用。

平成29年度入試から、すべての学部学科において4技能のスコアを利用。

追手門学院大学「アサーティブ入試」の拡大

平成26年度から、学ぶ意欲と姿勢を持った受験生に入学を許可することを目的とし、受験前から「学ぶことについて考える」及び「アイデンティティの形成」の機会となるアサーティブプログラムとその成果を発揮できるアサーティブ入試を導入。

アサーティブプログラム

ガイダンス

個別面談

インターネットを利用した学習プログラム

振り返りを促すアサーティブノート

アサーティブ入試

一次試験：グループディスカッション
基礎学力適性検査

二次試験：面接

入学前学習

平成30年度までに、アサーティブ入試入学者割合を3割（目標値）に拡大。

高大接続改革の検討・推進体制について

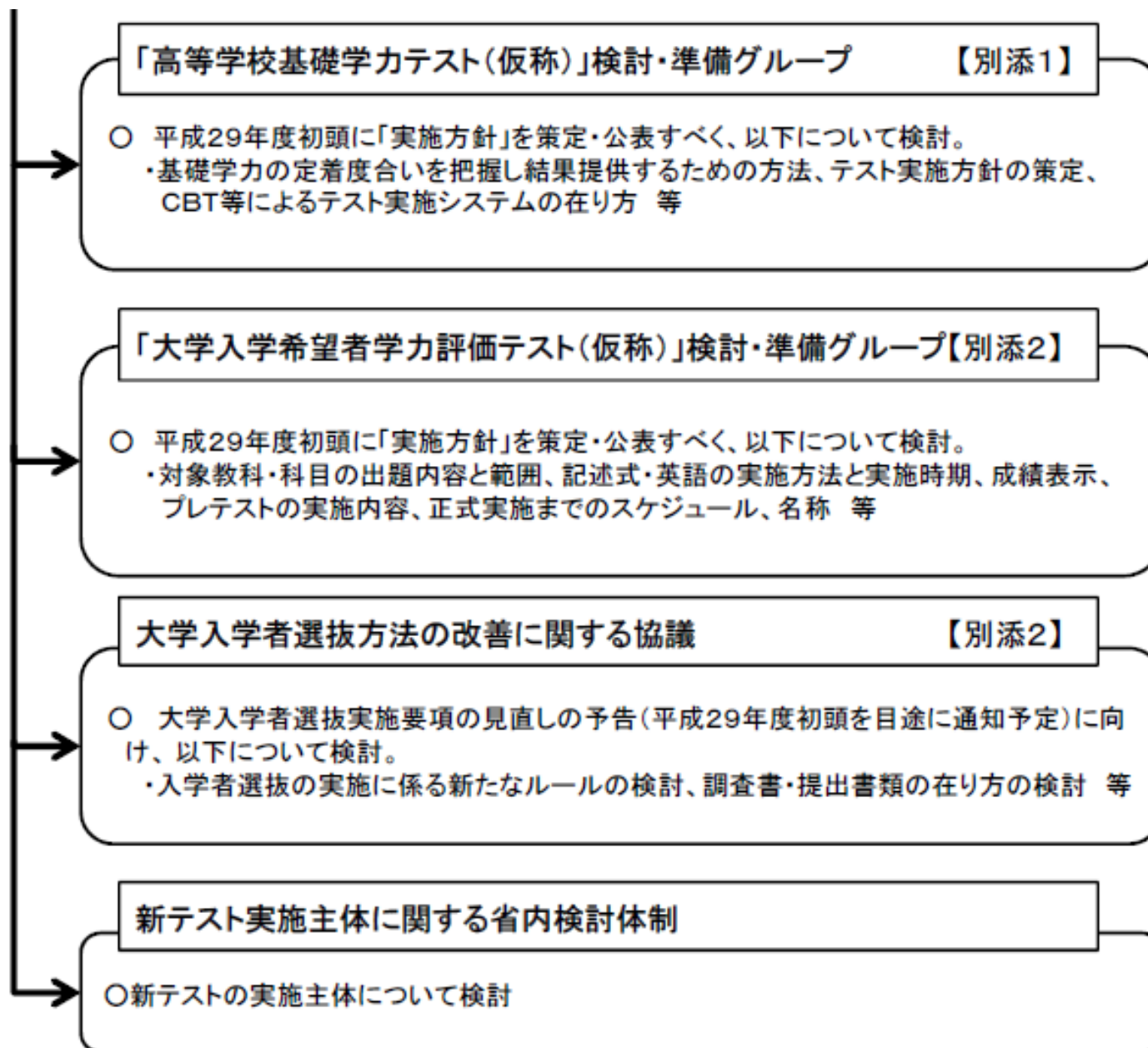
(2016.4.28文科省報道発表より)

文部科学省改革推進本部・高大接続改革チーム

○リーダー: 安西祐一郎文部科学省顧問、副リーダー: 鈴木寛文部科学大臣補佐官

○メンバー: 文部科学事務次官、前川文部科学審議官、大臣官房長、生涯学習政策局長、初等中等教育局長、高等教育局長、私学部長、浅田大臣官房審議官(高大接続・初等中等教育局担当)、義本大臣官房審議官(高等教育局担当)、荒瀬克己大谷大学教授(「高等学校基礎学力テスト(仮称)」検討・準備グループ主査)、岡本和夫大学改革支援・学位授与機構理事(「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」検討・準備グループ主査)、片峰茂長崎大学学長(大学入学者選抜方法の改善に関する協議座長)、大学入試センター(オブザーバー)

○任務: 改革の推進状況の把握・フォローアップ(以下4グループ等の検討状況を含む。) 等



次期学習指導要領に向けた これまでの審議のまとめ(素案) (文科省中教審教育課程企画特別部会2016.8.1)

1. 2030年の社会と子供たちの未来

本「審議のまとめ」は、2030年の社会と、そして更にその先の豊かな未来を築くために、教育課程を通じて初等中等教育が果たすべき役割を示すことを意図している。

グローバル化は我々の社会に多様性をもたらし、また、急速な情報化や技術革新は人間生活を質的にも変化させつつある。こうした社会的変化の影響が、身近な生活も含め社会のあらゆる領域に及んでいる中で、教育の在り方も新たな事態に直面していることは明らかである。

そこで本「審議のまとめ」は、学校を、変化する社会の中に位置付け、教職員間、学校段階間、学校と社会との間の相互連携を促すため、初等中等教育の総体的な姿を描くことを目指すものである。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/_icsFiles/afieldfile/2016/08/03/1375316_3_1_1.pdf

次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ（素案）

（総論部分）

目次

1. 2030年の社会と子供たちの未来

- （1）新しい時代と「社会に開かれた教育課程」 1
- （2）これまでの学習指導要領改訂の理念と子供たちの現状 6
- （3）次期改訂に向けた課題 10

2. 新しい学習指導要領等を目指す姿

- （1）「社会に開かれた教育課程」を実現する、新しい学習指導要領等の在り方 . . . 13
- （2）教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現 14
- （3）新しい学習指導要領等の考え方を共有するための、総則の抜本的改善 . . . 17

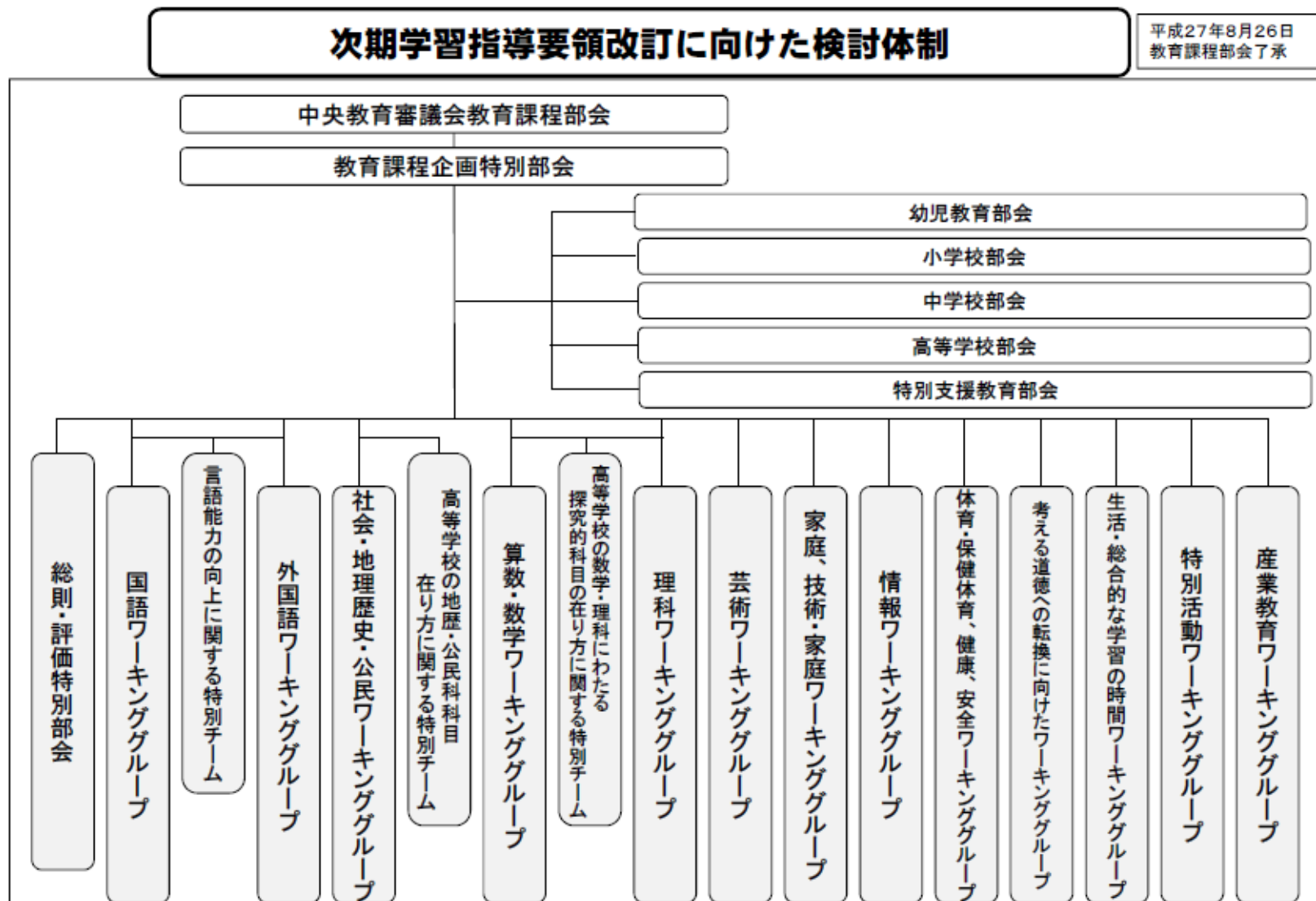
3. 育成すべき資質・能力について 一何ができるようになるか一

- （1）育成すべき資質・能力についての基本的な考え方 18
- （2）資質・能力に共通する要素である三つの柱 19
- （3）教科等を学ぶ意義の明確化 23
- （4）教科等を越えたすべての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力 . . . 26
- （5）現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力 31
- （6）発達の段階や成長過程のつながり 35

4. 各教科等を学ぶ意義と教科等横断的な視点を踏まえた教育課程の編成 一何を学ぶか一

①高等学校教育

次期学習指導要領改訂 社会に開かれた教育課程へ



©Yuichiro Anzai

主体的・対話的で深い学びの実現 （「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）（案）

「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、子供たちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたってアクティブに学び続けるようにすること

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【例】

- 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- 「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする



主体的な学び
対話的な学び
深い学び

学びを人生や社会に
生かそうとする
学びに向かう力・
人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の
習得

未知の状況にも
対応できる
思考力・判断力・表現力
等の育成



【対話的な学び】

子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【例】

- 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広げる
- あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る



【深い学び】

各教科等で習得した知識や考え方を活用した、「見方・考え方」を働かせて、学習対象と深く関わり、問題を発見・解決したり、自己の考えを形成したり、思いを元に構想・創造したりする「**深い学び**」が実現できているか。

【例】

- 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく
- 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく



高等学校の教科・科目構成について(案) (科目構成等に変更があるものを抜粋)

…共通必修 選択必修

※ グレーの枠囲みは既存の科目

国語科

論理国語 (仮称)	文学国語 (仮称)	国語表現 (仮称)	古典探究 (仮称)
現代の国語 (仮称)		言語文化 (仮称)	

外国語科

英語コミュニケーションⅡ・Ⅲ (仮称) (「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の統合型)	論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (仮称) (スピーチやプレゼンテーション、ディベート、ディスカッション等)
英語コミュニケーションⅠ (仮称) (「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の統合型)	

※ 英語力調査の結果やC E F Rのレベル、高校生の多様な学習ニーズへの対応なども踏まえ検討。

地理歴史科

地理探究 (仮称)	日本史探究 (仮称)	世界史探究 (仮称)
地理総合 (仮称)	歴史総合 (仮称)	

公民科

倫理 (仮称)	政治・経済 (仮称)
公共 (仮称)	

家庭科

家庭基礎 (仮称)	家庭総合 (仮称)
--------------	--------------

情報科

情報Ⅱ (仮称)
情報Ⅰ (仮称)

理数科

理数探究 (仮称)
理数探究基礎 (仮称)

総合的な探究の時間 (仮称)

総合的な探究の時間
(仮称)

※ 実社会・実生活から自ら見出した課題を探究することを通じて、自分のキャリア形成と関連付けながら、探究する能力を育むという在り方を明確化する。

数学科

数学Ⅲ	数学C (仮称)
数学Ⅱ	数学B
数学Ⅰ	数学A

理科

科学と人間生活	物理	化学	生物	地学
	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎

②高等学校基礎学力テスト(仮称)

- 趣旨
- 準備時期・準備方法
- 実施教科科目
- 実施方法
- 実施回数・実施時期
- 「英語」の実施方法
- 「英語」の実施回数・実施時期
- 問題作成とストックの方法
- 採点方法
- フィードバックの方法
- 運営方法
- 経費

「高等学校基礎学力テスト(仮称)」の難易度について

高等学校基礎学力テスト(仮称)における複数レベルの問題のセットのイメージ

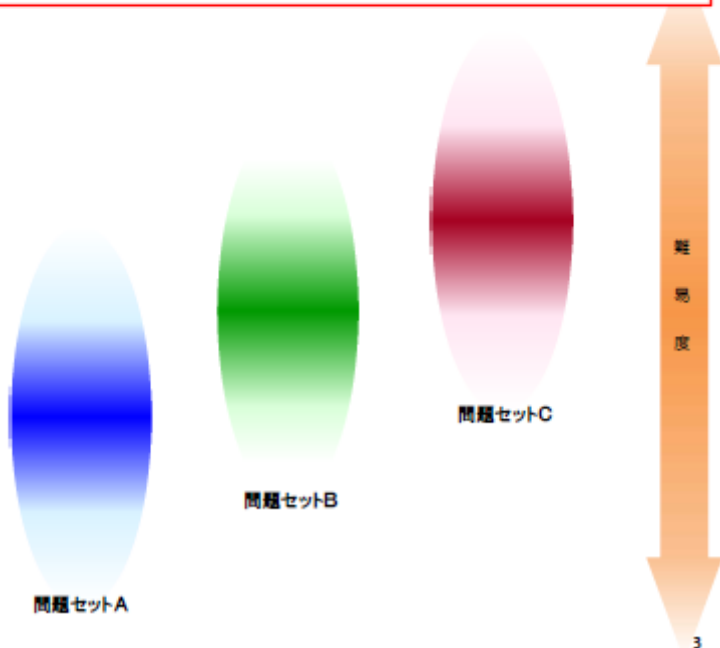
【基本的考え方】

アイテムバンクに蓄積した大量の問題群から複数レベルの問題のセットを構築し、学校がその中から適切なものを選んで受験できる仕組みを目指す。

基礎学力テストにおいて、集団における相対的な位置ではなく、生徒の基礎学力の定着度合いを把握し、段階表示で結果提供できるようにするための方法について、試行等を通じて検討・精査を進めることを目指す。

【概念図イメージ】

以下の図は、「難易度の異なる複数レベルの問題のセットを構築すること」をイメージ化したものである。出題される問題の内容や難易度と評価結果の示し方との関係については、段階表示の考え方の整理とともに、問題に対する生徒の正誤状況等の蓄積・分析等を通して今後十分に検討・精査していく必要があり、今回提示する問題例も、段階表示と結びつけて選別したものではない。



問題例 4 「書くこと」について技能統合型で問う出題形式と、難易度のイメージを示すための問題例

CEFR:Below A1-A1

問題

Instructions

In this task, there is a picture and a set of instructions. The instructions ask you to write about three different things, using the picture as a guide. Read the instructions and write your text on the opposite page. Follow the instructions carefully.

Example task



Write your friend an email and send this picture from your holiday. Tell your friend about three things in the photo:

- where the people are
- the weather
- what the people are doing.

Write 20–30 words.

解答例

My family is at the beach. My mum, dad and sister are playing in the sea with my dog. My little brother is sitting on the sand. It is sunny.

問題例1 日常生活との関わりをより意識させる出題のイメージを示すための問題例

問題

ある電気店で下のような広告があった。
この広告の空所を埋めて i) 何年使用すると食器洗い機の方が ii) いくら安くなるかを伝える広告を完成させなさい。

食器洗い機 価格40,000円(税込)

食器洗い機は手洗いに比べて、食器洗いにかかる費用が20%少なくて済みます。
手洗いの場合、1年間の費用は22,000円

つまり、(i)年使えば食器洗い機の方が、(ii)円安くなる！！

※食器洗い機にかかる費用には、光熱費、水道代、洗剤代等食器洗いに必要な金額すべてとその金額にかかる消費税を含んでいます。

※出典 平成26年度和歌山県高等学校入学者選抜学力検査問題 改題

ポイント

- 電気店の広告という日常の身近な素材に数学を活用して、合理的に生活を見直す問題。
- 文章の情報から、式を作り出すことを求めており、どのように一次不等式の考え方をういれよいかを問うている。

学習指導要領の関連項目

高等学校学習指導要領 第4節 数学
第1 数学I

(1)数と式

イ 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めたり、一次不等式を事象の考察に活用したりすること

正答

(i) 10年使えば食器洗い機の方が(ii) 4000円安くなる

【参考】

- (i) 式) $22000x > 40000 + 17600x$ 解) $x > 9\frac{1}{11}$
(ii) 式) $22000 \times 10 - (40000 + 17600 \times 10)$ 解) 4000

※一次不等式を用いずとも解答を導き出すことは可能であるため、式の記述を求めた場合は、一次不等式を用いることができるかどうかを確認することも可能となる。

21

基となった問題

ある電気店で下のような広告があった。
この広告を見て、食器洗い機を購入して10年間使用する場合の費用と、食器洗い機を購入せずに10年間食器を手洗いする場合の費用を比較すると、どちらの方がいくら安いのか、説明しなさい。

食器洗い機 価格40,000円(税込)

食器洗い機は手洗いに比べて、食器洗いにかかる費用が20%少なくて済みます。
手洗いの場合、1年間の費用は22,000円

※食器洗い機にかかる費用には、光熱費、水道代、洗剤代等食器洗いに必要な金額すべてとその金額にかかる消費税を含んでいます。

※平成26年度和歌山県高等学校入学者選抜学力検査問題

正答例

食器洗い機を購入して使用した場合

食器洗い機の価格が40000(円)で、
1年間の費用は、 $22000 \times 0.8 = 17600$ (円)だから、
10年間の総費用は、 $40000 + 17600 \times 10 = 216000$ (円)である。

手洗いの場合、

10年間の総費用は $22000 \times 10 = 220000$ (円)である。
食器洗い機を購入して使用した場合と手洗いの場合の10年間の総費用の差を求めると、
 $220000 - 216000 = 4000$ (円)

よって、食器洗い機を購入して使用した方が4000円安くなる。

③大学入学希望者学力評価テスト(仮称)

- 趣旨
- 準備時期・準備方法
- 実施教科科目
- 実施方法
- 実施回数・実施時期
- 「英語」の実施方法
- 「英語」の実施回数・実施時期
- 問題作成とストックの方法
- 採点方法
- フィードバックの方法
- 運営方法
- 経費

大学入学希望者学力評価テスト(仮称)

重視すべき学習のプロセスと能力・問題イメージ(例)

2. 国語において重視すべき学習のプロセスと評価すべき具体的な能力(案)

〔重視すべき学習のプロセス〕

例えば、

多様な見方や考え方が可能な題材に関する文章や図表等から得られる情報を整理し、概要や要点等を把握するとともに、

他の知識も統合して比較したり推論したりしながら

自分の考えをまとめ、

他の考えとの共通点や相違点等を示しながら、

伝える相手や状況に応じて適切な語彙、表現、構成、文法等を用いて効果的に伝えること。

〔評価すべき具体的な能力〕

- ア) 与えられた文章や図表等の中から情報を収集したり取り出したりする力
- イ) 文章や図表等の情報を整理し、解釈する力
- ウ) 文章や図表等の情報を要約したり、一般化したりする力
- エ) 目的に応じて必要な情報を見つけ出して文章や図表等の情報と統合し、比較したり関連づけたりする力
- オ) 得た情報を基に、物事を推し量ったり予測したりする力
- カ) 得た情報を基に、立場や根拠を明確にしなが
ら、論理的に思考する力
- キ) 上記ア)～カ)のプロセスを経て、問題解決のた
めの方法や計画(自分の考え)をまとめる力
- ク) 上記ア)～キ)のプロセスで得た情報を構造化
し、目的や意図を明確にし、構成や展開を工夫
して表現する力
- ケ) 受け手の状況を踏まえて表現する力
- コ) 表現した結果を振り返り、さらに改善する力

問題イメージ＜例3＞

（公立図書館に関し、その現状と課題の他、若者の自立・社会参画支援を推進する場、家庭教育支援のための場、地域の人たちの対話や交流の場としての試みなど今後の公立図書館の可能性等について記した1,400字程度の新聞記事を読んで答える問題）

問 今後の公立図書館の在るべき姿について、あなたはどのように考えるか。次の1～3の条件に従って書きなさい。

条件1 200字以上、300字以内で書くこと（句読点を含む。）。

条件2 解答は2段落構成とすること。

第1段落には、今後の公立図書館が果たすべき役割として、あなたが重要と思うものについて書くこと。その際、文中に示された公立図書館の今後の可能性のうち、今、あなたが重要と考える事項を一つ取り上げ、本文中の言葉を用いて書くこと。

第2段落には、仮にあなたが図書館職員だとした場合、図書館において、第1段落で解答した姿を実現するために、どのような企画を提案したいかを記すこと。その際、企画の内容に加えて企画の効果についても記すこと。

条件3 本文中から引用した言葉には、かぎ括弧（「 」）を付けること。

文科省高大接続システム改革会議2015.12.22資料「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」で評価すべき能力と記述式問題イメージ例【たたき台】より

2. 数学において重視すべき学習のプロセスと評価すべき具体的な能力(案)

〔重視すべき学習のプロセス〕

例えば、
事象から得られる情報を
整理・統合して問題を設定し、
解決の構想を立て、
数量化・図形化・記号化などを
して数学的に表現し、
考察・処理して結果を得、
その結果に基づきさらに推論し
たり傾向や可能性を判断したり
すること。

〔評価すべき具体的な能力〕

- ア) 問題文・図形等の事象やその数学的表現から
情報を読み取る力
- イ) 事象から問題解決に必要な情報や条件を抽
出・収集したり、仮定をおいて考えたりする力
- ウ) 情報を整理・統合して問題解決の方針を立て
る力
- エ) 関係や命題等を、適切な数学的表現を用いて
表す力
- オ) 数学の知識や技能を用いて論理的に考察・処
理して結果を得る力
- カ) 得られた結果を吟味し、それを基にさらに推論
したり、概念・法則・傾向等を見出して体系化
したりする力
- キ) 数学的な過程や結果を他者に分かるように伝
える力

問題イメージ<例4>

次の問いに答えよ。

伊藤さんは、「スーパームーン」に関する記事を読み、月が地球から最も離れたときに見える満月と比べて、記事にあるような「スーパームーン」はどのくらい大きく見えるのかを知りたくなり、月の見かけ上の大きさについて調べた。



夜空に浮かぶ大きな満月「スーパームーン」

月が地球に最も近づくタイミングと満月のタイミングが重なるため、月が通常より大きく見える。

(平成27年(2015年)9月28日 記事)

<伊藤さんの調べたこと>

○月の見かけ上の大きさは、見えている月を円と考えて、その直径の両端と視点とを結ぶ二等辺三角形の頂角である「視直径」で表す。

○「スーパームーン」の視直径はおよそ33分(ふん)、月が地球から最も離れたときの満月の視直径はおよそ29分である。

ただし、1分は 1° の $\frac{1}{60}$ である。

(1)伊藤さんは、次の方法で満月を観測し、フィルムに円を描いて比べてみることにした。

<伊藤さんの方法>

視点から月の中心に向かって500mmの位置に、月の中心と視点とを結ぶ直線に対して垂直になるように透明なフィルムを置く。そして、このフィルムを通して見える月をフィルムに写し取る。

伊藤さんの方法でフィルムに写し取られる、視直径 θ 分(ふん)の月の直径は何mmになるか。この直径を求める式を三角比を用いて答えなさい。

問題イメージ<例4>

(1)の伊藤さんの方法は、校庭に文字や形を描くときにも応用できる。

今、学校の屋上から校庭に描かれた四角形を見ている。下の図1、図2のように、伊藤さんの視点Pに対し、校庭を一つの平面と考えた上で、この平面に垂直になるように透明なフィルムを置く。このフィルムを通して校庭を見ながら、校庭に描かれた四角形ABCDを写し取ることとした。ただし、視点Pは、線分B'C'の中点M'と、線分A'D'の中点N'を含むフィルムに垂直な平面上にあるものとする。

(2) このとき、写し取られた四角形A'B'C'D'(図3)が正方形になる場合、校庭に描かれた図形は、 $AD > BC$ の等脚台形であるといえる。
上の下線部の事柄が言えることの理由を説明しなさい。

図1 真横から見た様子

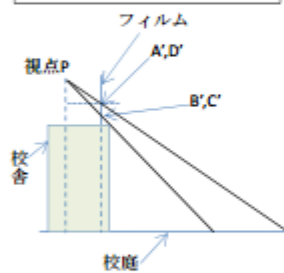


図2 真上から見た様子

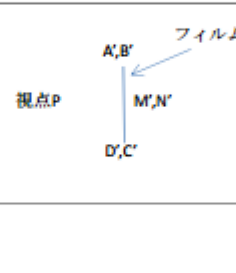
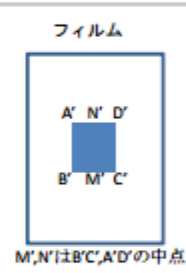


図3 フィルム上の図



(3) 校庭に描かれた四角形ABCDにおける2辺のADとBCの比はどのような式で表されるか。校庭から視点Pまでの高さをh、フィルム上の正方形A'B'C'D'の辺の長さをd、校庭から点B'までの高さをgとして、h、d、gを用いた式で示せ。

大学入学希望者学力評価テスト(仮称)への 「記述式問題」の導入はなぜ重要か？

【編集会議での町田さんと山下さんの意見】

町田さん



「4 まとめ」には、題名「打ち上げ花火の伝統」に合う内容を書いたほうがいいと思うわ。書き出しの文（「打ち上げ花火は、…伝統といえます。」）は、「歴史」に注目し、「1 打ち上げ花火の歴史」の内容をまとめているわね。

それに続く内容は、「現在」の打ち上げ花火に注目し、「**2** 打ち上げ花火の種類」と「**3** 花火師の小野さんの声」の「**イ** つくり出す伝統」の中に書かれている。現在における打ち上げ花火の形や色、打ち上げるときのくふうを取り上げて書いたほうがいいね。そして、最後に考えたことをまとめて書いたらどうかな。

山下さん



打ち上げ花火は、およそ400年もの歴史をもった、日本のすばらしい伝統といえます。

80°F

100°F

※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。
解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きま
しょう。

三 今村さんたちは、「4 まとめ」の C について、「編集会議での町田さんと山下さんの意見」を受け、書き出しの文に続く内容を考えました。あとの条件に合わせて書きましよう。

©Yuichiro Anzai

「記述式問題」
に答えが書けるとは、
「書く力」を自分で育ててきた
ということ

平成25年全国学力・
学習状況調査
(小6国語B p.11)より

http://www.nier.go.jp/13chousa/pdf/13mondai_shou_kokugo_b.pdf

**「書く力」の中には、
知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性
のすべてが含まれる。**

1. 書くべき内容についての思考（←主体性）
2. 書くべき内容についての探索、自発的質問、抽出、判断（←主体性）
3. 書くべき内容についての表現（←主体性）
4. 書くべき内容についての経験（←多様な人々との協働）
5. 読み手についての理解と感性（←多様な人々との協働）
6. 書くべき内容についての知識
7. 単語、文、文章などの読みと理解
8. 身体動作
9. 書くための技能
10. その他
 - 「書く力」、「話す力」は、「読む力」*、「聞く力」に比べ、はるかに能動的な力を含む。
 - 「書く力」は、「読む力」*を含み、さらに「創造力」や「産出力」を含む。
 - 「書く力」は、一部分に「社会性」の能力を含む。
 - 「話す力」は、相当部分に「社会性」の能力を含む。

④個別大学の入学者選抜

- AO入試、推薦入試、一般入試の在り方の見直し
- 多様な背景をもつ受検者の選抜
- 調査書の見直し
- 推薦書の見直し
- 多角的評価方法とその配分比率をアドミッションポリシーに明記
- 実施時期の検討
- その他

【以下、高大接続システム改革会議2016.3.11「最終報告案」p.39より(脚注省略)】
具体的な評価方法としては、例えば、次のようなものが考えられる。

- ・「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の結果
- ・自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法
- ・調査書
- ・活動報告書
- ・各種大会や顕彰等の記録、資格・検定試験の結果
- ・推薦書等
- ・エッセイ、大学入学希望理由書、学修計画書
- ・面接、ディベート、集団討論、プレゼンテーション
- ・その他

○ その際、大学入学前に取り組んできた学習や活動の履歴や、大学における学修への意思や意欲等をより適切に評価するため、国においては、「調査書」の在り方を見直すとともに、提出書類のより積極的な活用を促すことも必要である。

⑤大学教育改革:アクティブラーニングの標準的方法の開発

(1)主体性・多様性・協働性

- 基礎知識・技能の獲得
- 思考力・判断力・表現力の育成
- 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度の養成
- **学びの方法**:一斉授業、個別学習、チームワーク、教えてもらって学ぶ、経験から学ぶ...
- **学びの場**:教室、校内、校外(家庭、地域、国内、国外...)、ユビキタス...
- **学びの道具**:教科書、教材、副教材、ノート、宿題、コミュニケーション(⇔教員、⇔学生、⇔その他)、記録とその利用(ポートフォリオ...)、ICTの利活用...

日本で学ぶ生徒・学生にとって最も大事なものは**主体性**

1. 主体性とは、自分の目標を自分で見だし、実践する力（≠一人よがり主張する力、≠人の意見に従わない力）
2. 自分の目標をもっている人の心は、その目標が達成されやすいようにはたらく。（『問題解決の心理学』中公新書,1985）
3. 主体性は他の諸々の「学び、働く力」の原動力。



(2) 思考力・判断力・表現力

(各項目重複あり; 項目立ての多くはPISAを参考)

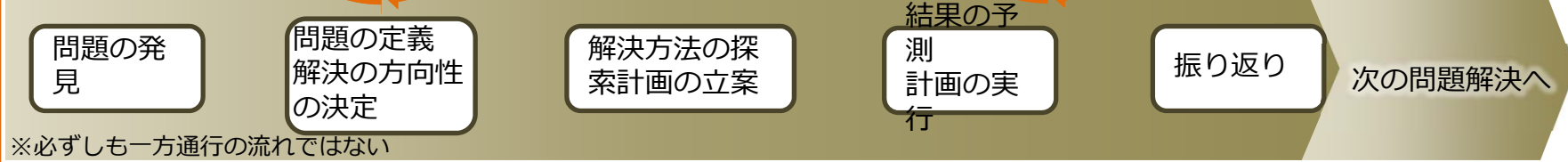
- ① **言語**: 読解、要約、文章構成、文脈に応じた適切な表現、コミュニケーション、その他。
- ② **数**: 統計的思考、論理的思考、図・表・グラフなどを描く・読む、その他。
- ③ **科学**: モデルを構成して説明する、抽象化する、内部状態を推定する、計画を立てる、大ざっぱに推測する、合理的に予測する、その他。
- ④ **社会**: 合理的思考、的確な例示、歴史や社会の複雑な現象から問題を端的に把握する・議論を焦点化する、矛盾点を明確にする、原因と結果／手段と目標の構造を見出す、その他。
- ⑤ **問題発見・解決**: 仮説を立てて推論する、多くの例から共通性を見出す、答えのない問題に答えを見出す、問題の構造を定義する、文脈に応じて問題解決の道筋を定める、計画を立案して実行する力、振り返り、その他。
- ⑥ **情報の活用**: 的確な情報を収集する、情報を整理して体系化する、情報を的確に表現し、伝達する、映像・グラフィクスなどを活用する、その他。
- ⑦ その他

高大接続システム改革会議
(2015.7.13) 資料より

他者への働きかけ、他者との協働
外部との相互作用

検 討 中

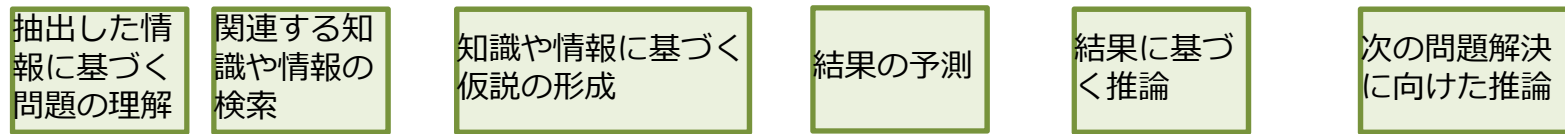
問題発見・解決
のプロセス



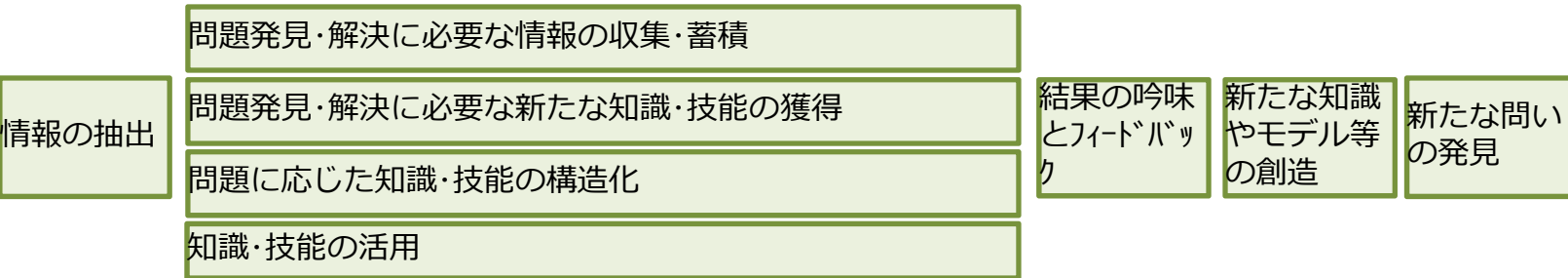
プロセスの中で働く思考・判断・表現等のうち、特に重視すべきものの例

思考

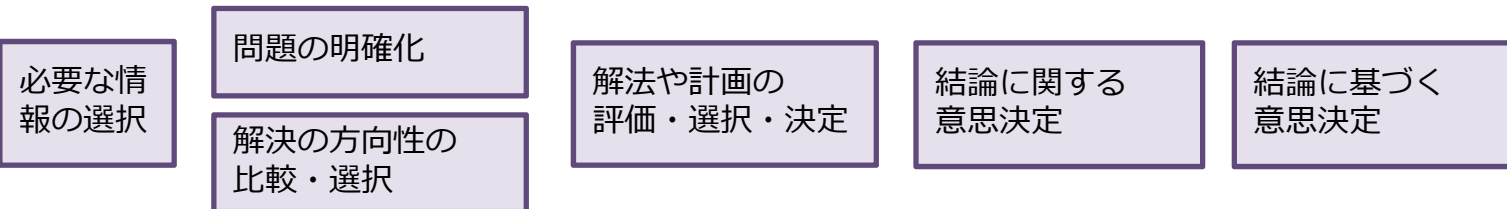
仮説の形成
推論



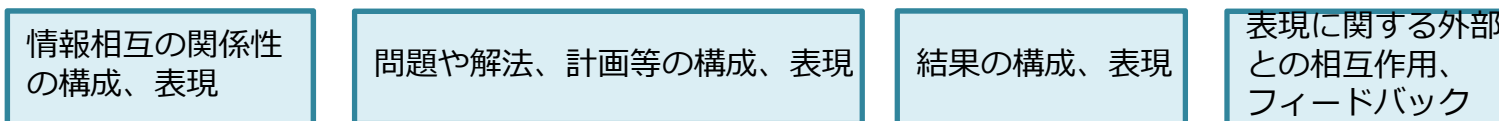
学習を通じた
創造的思考



判断



表現



言語表現、言語活動（記号や図表等による表現も含む）

© 2015 Hiro Anzai

アクティブラーニングの標準的方法の開発に向けて

(例: ある大学の授業から)

1.主体性をもって問題を発見し解決するための5つの手段

1. 目標発見の意義、目標発見の方法を知る。
2. 情報収集の方法、情報収集の限界を知る。
3. 経験的知識の意義、合理的思考の方法を知る。
4. 問題「として」の理解の方法・問題「として」の表現の方法を知る。
5. メタ認知の役割、メタ認知の方法を知る。

2.問題発見・解決のプロセスとその実践(次ページ参照)

3.合理的思考・探究的思考のプロセスとその実践(詳細略)

4.身につけるべきスキル:他人を説得できる提案を一定の期間内に立案するスキル、合理的に思考するスキル、明快な正しい文章を書くスキル、思考内容を明快に正しく話すスキル

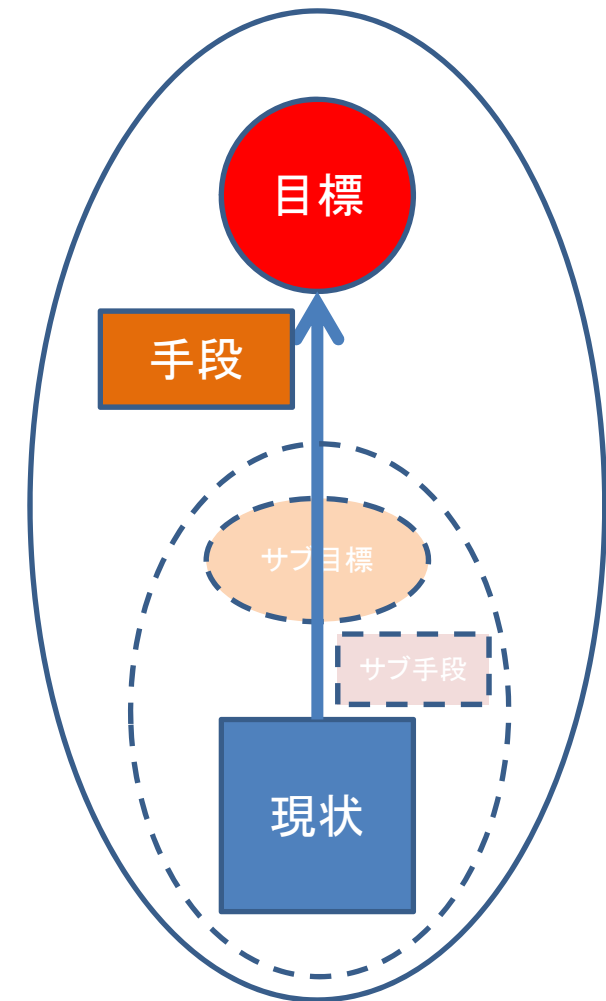
5.上記を特定領域の知識の獲得と合体して行うことが重要

上智大学2016年度春学期授業「主体性をもって学ぶには
どうすればよいかー問題解決の認知科学入門」資料を修正

©Yuichiro Anzai

問題発見・解決のプロセス(1)

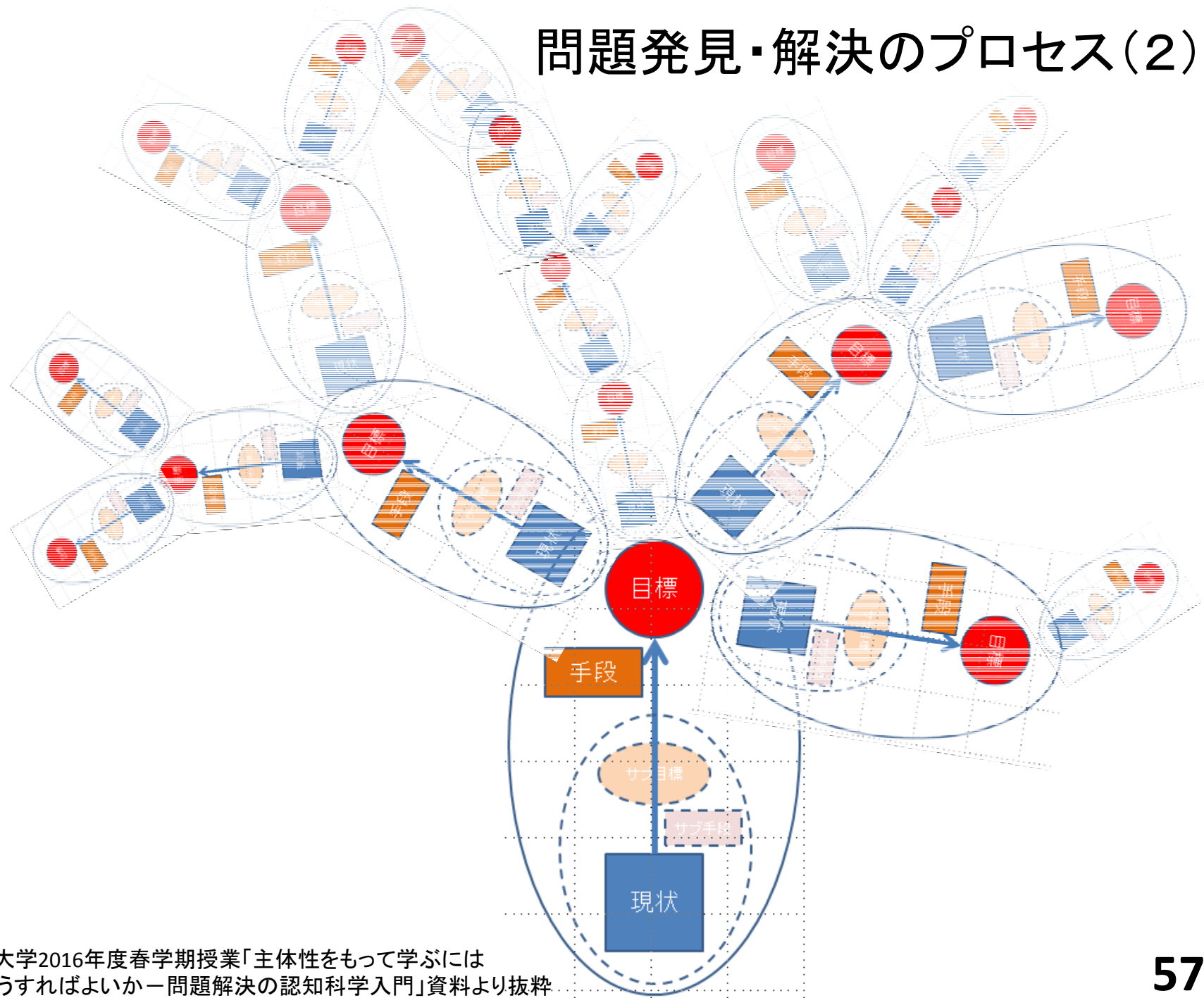
- 願望の生成
- 現状の理解
- 未来像の構成
- 歴史的経緯の理解
- 考えるべきファクターの列挙
- 目標の発見
- 将来予測(環境を含む)
- サブ目標の発見
- 達成手段の発見
- マネジメントとPDCAサイクル



上智大学2016年度春学期授業「主体性をもって学ぶには
どうすればよいかー問題解決の認知科学入門」資料より抜粋

©Yuichiro Anzai

問題発見・解決のプロセス(2)



「ことばの力」を鍛える

- 他人の立場や痛みを自分の心に感じる。
- どう話したら、どう書いたら、これから何が起こり得るかを予測する。
- 発話文脈全体にわたるいろいろな情報に注意する。
- 読み手、聴き手が理解しやすい、呼吸、リズム、音韻、単語、文法、文体を使ってみる。
- 自分の経験、知識、使える語彙を豊かにすることを心がける。
- 自分の言うこと、書くことを、自分の心で聴き、読む。
- 自分の責任と覚悟をもって言う、書く。

2014.4.21 大学1年生向け講演「ことばの力が必要なとき」より

情報を鵜呑みにしない力を鍛える

- 正しい情報かどうかを吟味する。
- 意味のある情報かどうかを吟味する。
- 信頼できる出所からの情報かどうかを吟味する。
- その情報に対して「なぜ」、「だから」を問うてみる。
- その情報を、違うことばを使って要約してみる。
- その情報の例をあげてみる。
- その情報と類似の情報を自分で考えてみる。
- その情報についての自分の考えを人に話したり書いたりしてみる。

A町では去年交通事故が30件起こったそうです。でも、B町では去年300件もあったそうですよ・・・ B町には住みたくないですね。

チームワーク力、メタ認知力を鍛える



一斉学習に加えて
個別学習・協働学習を
教えられる学びから
主体的・創造的な学びへ

研究発表会(2013年2月)パンフレット
東京都日野市立平山小学校HPより
[http://www.e-hirayama.hino-
tky.ed.jp/modules/wfdownloads/singlefile.php?cid=20&id=315](http://www.e-hirayama.hino-
tky.ed.jp/modules/wfdownloads/singlefile.php?cid=20&id=315)

2012. 5 ベルリン(ドイツ)
グローバル・リサーチ・カウンシル第2回総会



目標設定力、合理的思考力、実践力を鍛える

1. 本当の目標を見出す（目標を探し、共有する）
2. 正確な情報を求める（情報を出し合い、共有する）
3. 合理的な分析を行う（分析の方法を出し合い、共有する）
4. 新しい仮説を立てる（仮説を出し合い、共有する）
5. 批判的に検証する（検証の方法を出し合い、共有する）
6. 多角的に評価を行う（お互いに評価し合い、共有する）
7. 勇気をもって実践する（実践し合い、共有する）

の7つが関連し合っていることを知るとともに、7つを一緒に考え、実践に使えるようになる力を身につける。

（2020年小学校4年生の授業実践『「デジタル脳」が日本を救う—21世紀の開国論』より）

「歴史的思考力」を鍛える

例えば、文章や年表、地図、図表等の資料から、歴史に関する情報を整理し、その時代の人々が直面した問題や現代的な視点からの課題を見だし、その原因や影響、あるいは解決策等についての仮説を立て、諸資料に基づき多面的・多角的に考察し、その妥当性を検証して考えをまとめ、根拠に基づき表現する力などが考えられる。

（「歴史的思考力」とは 日本学術会議より）

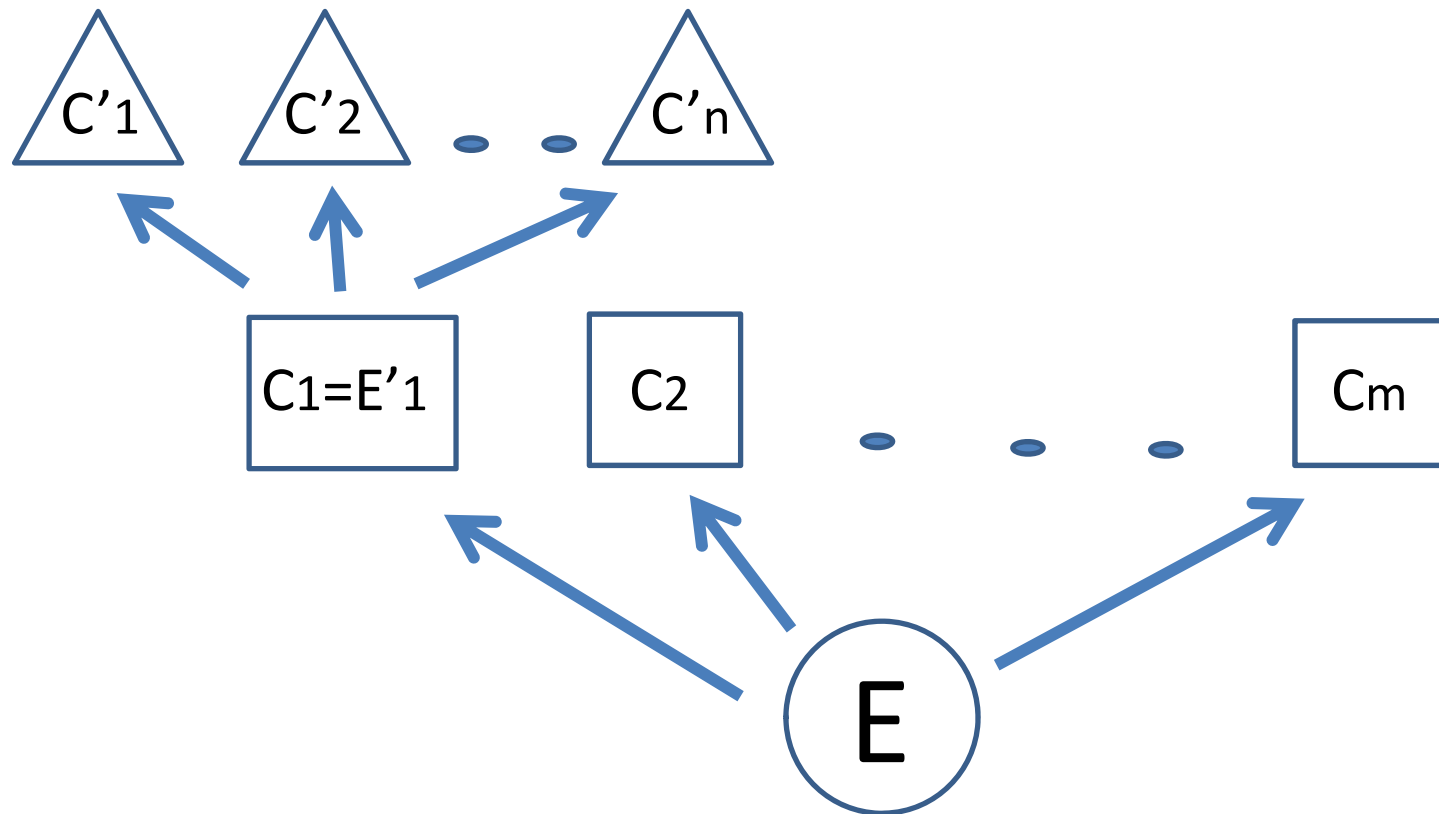
（文科省「高大接続システム改革会議」資料）

1929年にアメリカで大恐慌が起こった。

1930年に昭和恐慌が起こった。

1932年に日本学術振興会が誕生した。

類推推論
因果推論
帰属推論



類推推論・因果推論・帰属推論の例

類推推論

1. フランスの市民革命、アメリカの独立戦争、中国の辛亥革命、日本の明治維新に共通する点の一つ挙げて説明しなさい。また、明治維新が他のどれとも異なる点の一つ挙げて説明しなさい。

因果推論

1. 明治時代になって武士が窮乏した結果として起こったと考えられることを一つ挙げ、因果関係について論じなさい。
2. 1990年代以降の急激な人口減少は、今後の日本にどのような影響を与えると考えられるか。

帰属推論

1. 現代ヨーロッパ最大の問題の一つである難民の流入は、なぜ起こっていると考えられるか。
2. 1967年に5カ国によって結成されたASEAN(東南アジア諸国連合)が1999年に加盟10カ国になるまで30年あまりかかったのはなぜだと考えられるか。また、1967年にEC(欧州諸共同体)が結成されてから1993年にEU(欧州連合)が発足するまで25年あまりを要したのはなぜだと考えられるか。

イギリスのGrade9-12向け「世界史」教科書の付録にある セルフガイドに書かれている項目(1)

Section 1: 批判的に読む

- 中心となる考え(main ideas)を決定する(determine)
- 時間の順序に沿う
- 明確にする(clarify)、要約する
- 問題(problems)は何か、その解答(solutions)は何かを特定する(identify)
- 原因を分析する、結果を認識する
- 比較する、対照する
- 意見と事実を区別する

Section 2: 高次の批判的思考

- カテゴリー化する
- 推論する
- 結論を導く
- 歴史に関する展望(historical perspectives)を拓く(develop)
- 歴史に関する疑問を定式化する
- 予測する
- 仮説を立てる
- 動機(motives)を分析する
- イシュー(issues)を分析する
- バイアス(biases)を分析する
- 意思決定(decisions)や行動軌跡(courses of action)を分析する
- 意見を形成する(form)、意見を支持する(support)
- 合成する(synthesizing)

イギリスのGrade9-12向け「世界史」教科書の付録にある セルフガイドに書かれている項目(2)

Section 3: 証拠(evidence)を集める
(explore): 印刷物(print), 視覚的
(visual), 技術的(technological)情
報源(sources)

- 一次、二次情報源を分析する
- 視覚的、聴覚的、マルチメディア
情報源
- インターネットを使う
- 地図を解釈する(interpret)
- 図表(charts)を解釈する
- グラフを解釈する
- 政治漫画(political cartoons)を
解釈する

Section 4: プレゼンテーションを創る
(create)

- 社会科に向けた文章を書く(writing
for social studies)
- 地図を創る
- 図表やグラフを創る
- データベースを創り、使う
- モデルを創る
- 研究の概要(research outlines)を創
る／解釈する
- 口頭での(oral)プレゼンテーションを
創る
- 文書による(written)プレゼンテー
ションを創る

以下は本講演の参考資料です。

第5期科学技術基本計画(2016-2020)の概要(1)

第1章 基本的考え方

基本方針 先見性と戦略性 多様性と柔軟性 国際的に開かれたイノベーションシステム 各主体の持つ力を最大限発揮

第2章 未来の産業創造と社会変革に向けた新たな価値創出の取組

自ら大きな変化を起こし、大変革時代を先導していくため、非連続なイノベーションを生み出す研究開発と、新しい価値やサービスが次々と創出される「超スマート社会」を世界に先駆けて実現するための仕組み作りを強化する。

「超スマート社会」の競争力向上と基盤技術の戦略的強化 超スマート社会サービスプラットフォームに必要となる技術 新たな価値創出のコアとなる強みを有する技術

第5期科学技術基本計画(2016-2020)の概要(2)

第3章 経済・社会的課題への対応

国内又は地球規模で顕在化している課題に先手を打って対応するため、国が重要な政策課題を設定し、課題解決に向けた科学技術イノベーションの取組を進める。

第4章 科学技術イノベーションの基盤的力の強化

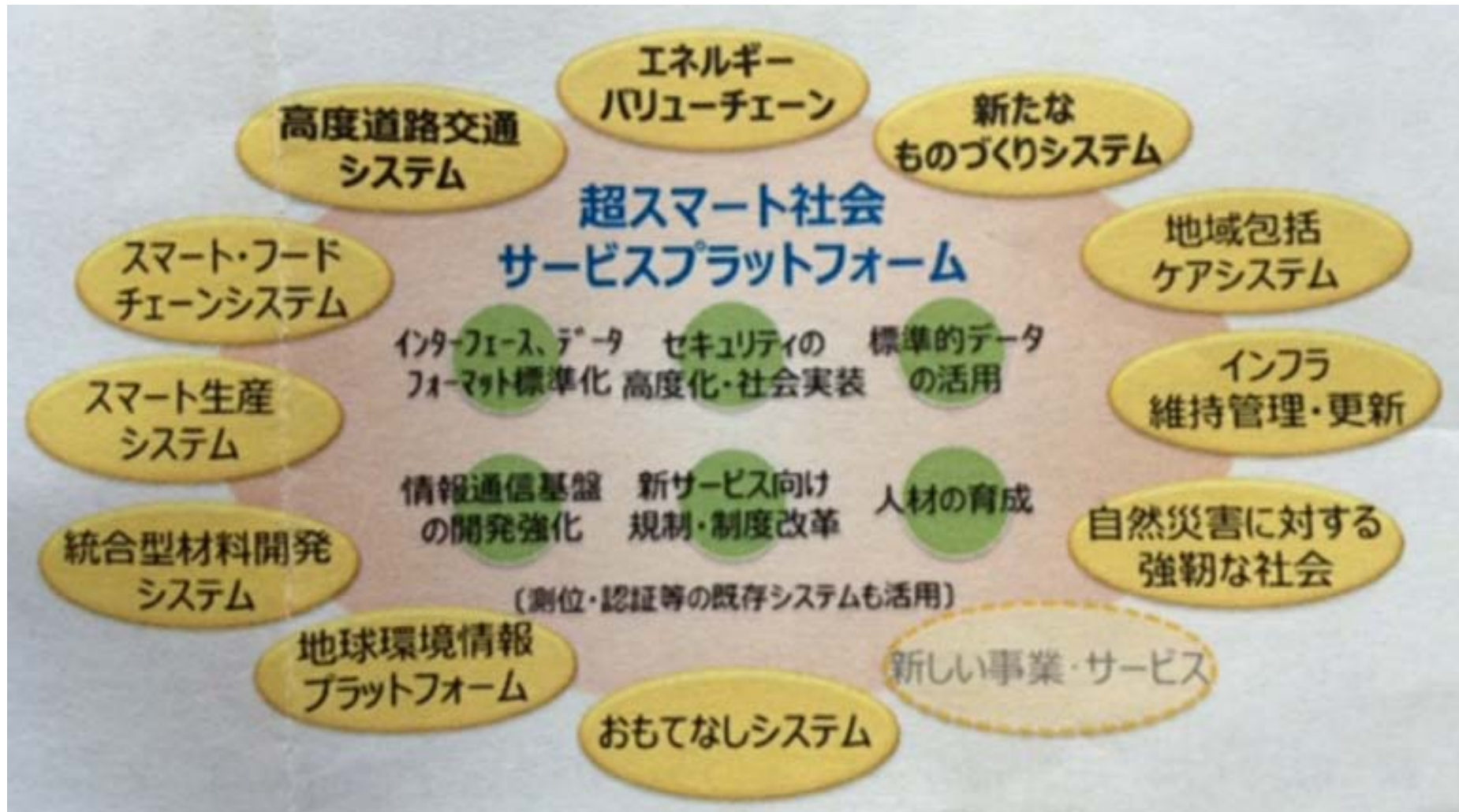
今後起こり得る様々な変化に対して柔軟かつ的確に対応するため、若手人材の育成・活躍促進と大学の改革・機能強化を中心に、基盤的な力の抜本的強化に向けた取組を進める。

第5章 イノベーション創出に向けた人材、知、資金の好循環システムの構築

国内外の人材、知、資金を活用し、新しい価値の創出とその社会実装を迅速に進めるため、企業、大学、公的研究機関の本格的連携とベンチャー企業の創出強化等を通じて、人材、知、資金があらゆる壁を乗り越えて循環し、イノベーションが生み出されるシステム構築を進める。

「超スマート社会」(Society5.0)

日本の長い歴史・文化に根差しながら、
個が生き個を活かす社会をどう創るか
世界観・歴史観の共有(政策担当者、企業、地域、大学)



試算結果の概要（2030 年までの姿）

産業構造と雇用市場 の転換（2015→2030）

現状放置シナリオ

- 我が国産業が海外のプラットフォームの下請けに陥ることにより、付加価値が海外に流出。
- 社会課題を解決する新たなサービス付加価値を生み出せず、国内産業が低付加価値・低成長部門化。
- 機械・ソフトウェアと競争する、低付加価値・低成長の職業へ労働力が集中し、低賃金の人が多い社会。

変革シナリオ

- 社会課題を解決する新たなサービスを提供し、グローバルに高付加価値・高成長部門を獲得。
- 技術革新を活かしたサービスの発展による生産性の向上と労働参加率の増加により労働力人口減少を克服。
- 機械・ソフトウェアと共存し、人にしかできない職業に労働力が移動する中で、人々が広く高所得を享受する社会。

【試算結果】

※2015～2030年度（年率）

実質GDP成長率

+ 0.8%

+ 2.0%

名目GDP成長率

+ 1.4%

+ 3.5%

賃金上昇率

+ 2.2%

+ 3.7%

名目（2020年度）

547兆円

うち第4次産業革命による
付加価値創出額 30兆円

592兆円

GDP（2030年度）

624兆円

846兆円

※この試算結果は、変革の「将来像」が時々刻々と変化することに応じて検討を継続すべきものである。

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/shin_sangyoukouzou/pdf/008_04_00.pdf
経済産業省新産業構造ビジョン中間整理（2016.4）より

産業構造の試算結果

※2015年度と2030年度の比較

部門	変革シナリオにおける姿	名目GDP成長率（年率）		従業者数 ※（ ）内は2015年度の従業者数		労働生産性（年率）	
		現状放置	変革	現状放置	変革	現状放置	変革
①粗原料部門 （農林水産、鉱業等）	経済成長に伴い成長。	+0.0%	+2.7%	-81万人 -71万人 (278万人)		+2.3%	+4.7%
②プロセス型製造部門 （中間財等） （石炭品、鉄鋼粗鋼、化学繊維等）	規格品生産の効率化と、広く活用される新素材の開発の プロダクトサイクルを回すことで成長。	-0.3%	+1.9%	-58万人 -43万人 (152万人)		+2.9%	+4.2%
③顧客対応型製造部門 （自動車、通信機器、産業機械等）	マスカスタマイズやサービス化等により新たな価値を創造し、 <u>付加価値が大きく拡大、従業者数の減少幅が縮小。</u>	+1.9%	+4.1%	-214万人 -117万人 (775万人)		+4.0%	+5.2%
④役務・技術提供型 サービス部門 （建築、卸売、小売、金融等）	顧客情報を活かしたサービスのシステム化、プラットフォーム化の 主導的地位を確保し、 <u>付加価値が拡大。</u>	+1.0%	+3.4%	-283万人 -48万人 (2026万人)		+2.0%	+3.6%
⑤情報サービス部門 （情報サービス、対事業所サービス）	第4次産業革命の中核を担い、成長を牽引する部門として、 <u>付加価値・従業者数が大きく拡大。</u>	+2.3%	+4.5%	-17万人 +72万人 (641万人)		+2.5%	+3.8%
⑥おもてなし型サービス部門 （旅館、飲食、娯楽等）	顧客情報を活かした潜在需要等の顕在化により、ローカルな市場が 拡大し、 <u>付加価値・従業者数が拡大。</u>	+1.2%	+3.7%	-80万人 +24万人 (654万人)		+2.1%	+3.5%
⑦インフラネットワーク部門 （電気、道路運送、電信・電話等）	システム全体の質的な高度化や供給効率の向上、他サービスとの 融合による異分野進出により、 <u>付加価値が拡大。</u>	+1.6%	+3.8%	-53万人 -7万人 (388万人)		+2.6%	+4.0%
⑧その他 （医療・介護、政府、教育等）	社会保障分野などで、AIやロボット等による効率化が進むことで、 <u>従業者数の伸びが抑制。</u>	+1.7%	+3.0%	+51万人 +28万人 (1421万人)		+1.5%	+2.9%
合計		+1.4%	+3.5%	-735万人 -161万人 (6334万人)		+2.3%	+3.6%

※部門は、産業連関表におけるアクティビティベースの産業分類に対応し、個々の財・サービスの生産活動による分類である。例えば、自動車製造をIT化で効率化する企業があった場合、自動車製造活動と情報サービス活動に分割され、それぞれの活動が顧客対応型製造部門と情報サービス部門に計上される。

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/shin_sangyoukouzou/pdf/008_04_00.pdf

経済産業省新産業構造ビジョン中間整理(2016.4)より

©Yuichiro Anzai

(参考) 日本の経済社会が抱える強み・弱み

日本の強み：現場（オペレーション、カイゼン、暗黙知）、生産設備群、質の高い消費者 等

日本の弱み：組織・企業・業種の壁、自前主義、レガシーの存在、意思決定スピードの欠如、戦略的思考欠如、前例主義
国内市場（パイ）の縮小 等

(参考) データ利活用に関する日本の強み・弱み

☆強み ☆弱み

☆少子高齢化のトップランナー
☆自動車などの市場シェア
☆高品質なモノを理解・評価できる消費者
★3Dプリンタ技術及び活用の限定

☆スーパーコンピューター技術
★人工知能技術開発とその活用
★ソフトウェア製品開発
★数理・医療分野等の基礎研究
★データサイエンティスト、セキュリティ人材等

5 社会実装
産業化

4 AI等を用いた
分析
実用化
(ビッグデータ化等)

データの
取得

データの
やり取り・通信

1 ☆ロボット、センサ等の世界シェア
☆質の高い教師データ
(現場の暗黙知)
★モバイルOS、デバイスなどの世界シェア

2 ☆世界最先端の高速データ通信網
★データセンターの維持管理費

3 ☆ローカルなビッグデータ(医療、交通など)
★データ共有、交換の動き

6 基本サイクル全体を一体的に提供するビジネスモデルを確立

★新たなビジネスを促進する規制制度など
★産業再編の規模、スピード
★個社毎に作り込んだシステムのレガシーコスト化

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/shin_sangyoukouzou/pdf/008_04_00.pdf

経済産業省新産業構造ビジョン中間整理(2016.4)より

©Yuichiro Anzai

国内外のICT関係民間・政府投資規模

	民間	政府
国内	【合計額】3,047億円 ● H社: 633億円 ● F社: 1,591億円 ● N社: 832億円 (IT関連研究開発費を試算)	【合計額】約100億円 (2016) ● 文科省AIP: 54.5億円 ● 経産省次世代人工知能・ロボット中核技術開発30.6億円+9億円 ● 総務省グローバルコミュニケーション計画の推進12.6億円 ● 加えて、厚労省、農水省、国交省
海外	【米国】55,900億円 ● A社: 11,600億円 ● A社: 5,630億円 ● F社: 5,250億円 ● G社: 12,300億円 ● I社: 6,880億円 ● M社: 14,200億円 【中国】2,140億円 ● B社: 2,140億円 (R&D投資総額)	【米国】300億円以上 ● NSF CISE IIS: 250億円(2014) ● DARPA: DEFT, 2012-2017, 28M\$)、SyNAPS, 2008-2016, 103M\$/5年) ● IARPA: Metaphor(2011-2015)、Aladdin video (2010-2015) Foresight and Understanding from Scientific Exposition (Fuse,2011-2015, 10M\$) 【欧州】233億円 ● Horizon 2020(Work Programme 2014-2015) ・Future and Emerging Technologies: 15M€/2+50M€の内数=10億円+69億円 ・Leadership in Enabling and Industrial Technologies : 154M€/2=106億円 ・Leadership in Enabling and Industrial Technologies : 68M€/2=47億円 【ドイツ】52億円 ● ドイツ人工知能研究所(DFKI): 38M€=52億円(2013)

※円換算: 1\$ = 125円、1元 = 19.6円、1€ = 138円

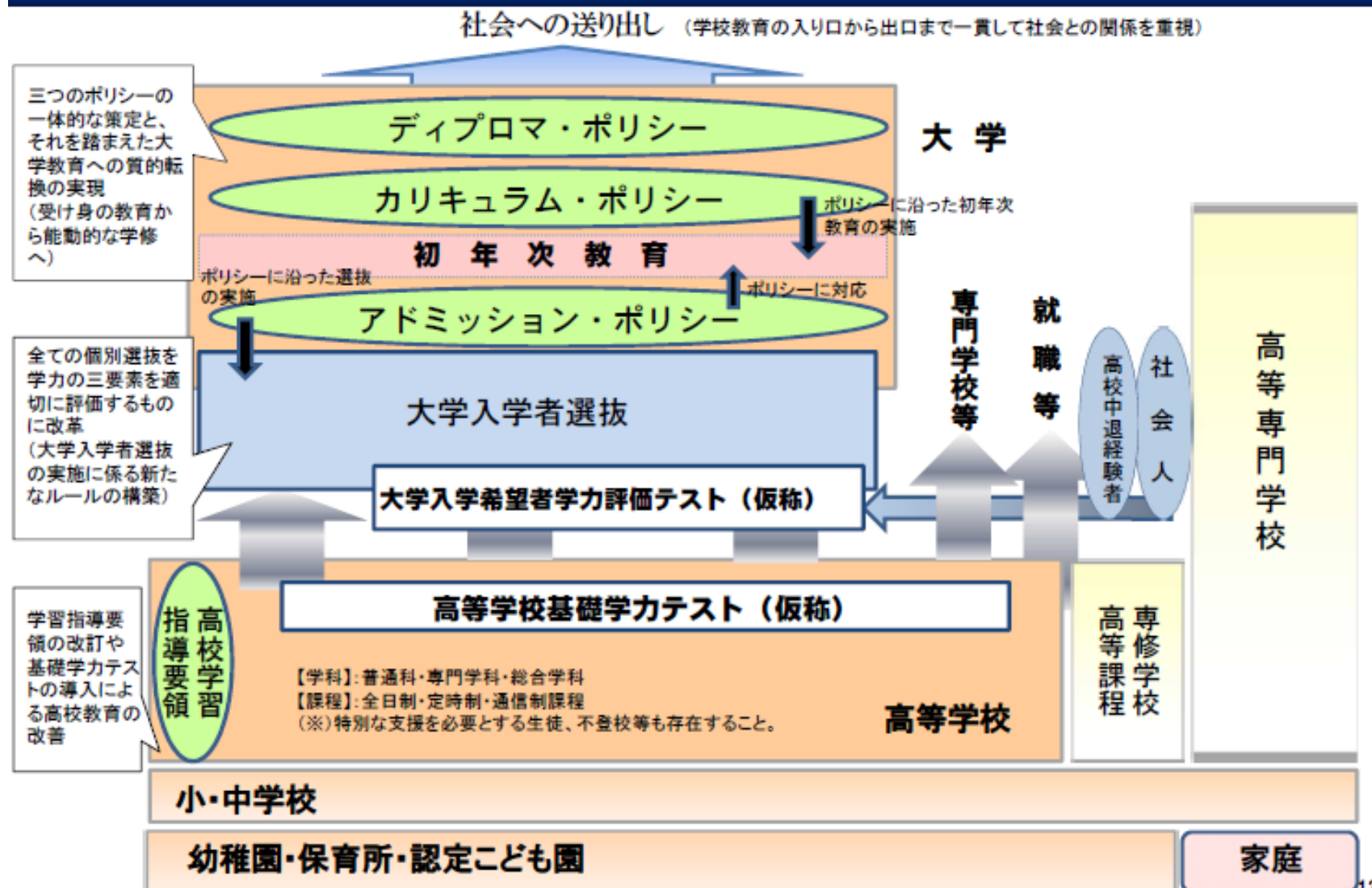
©Yuichiro Anzai

JST作成資料を一部改編

高大接続改革

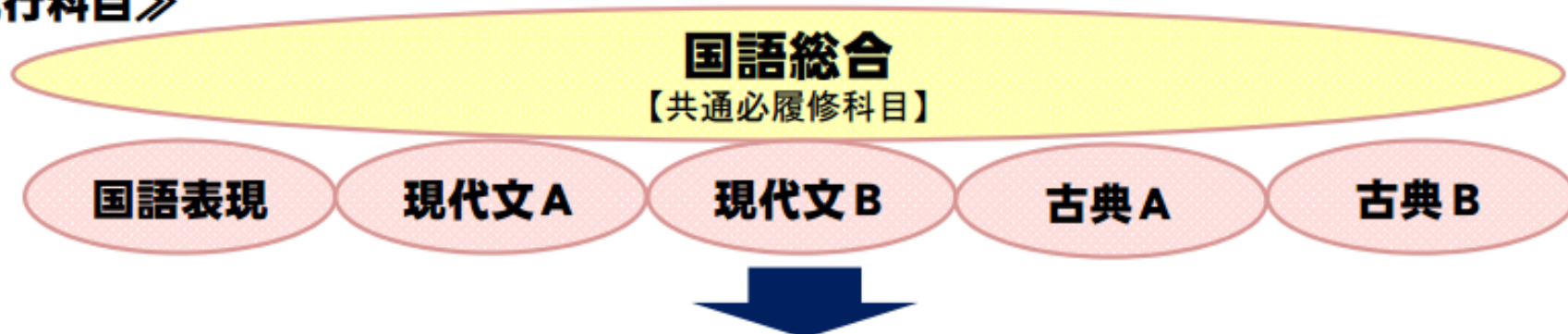
文部科学省高大接続システム改革会議
2016.3.11 資料より

初等中等教育から大学教育までの一貫した接続イメージ(高大接続改革の全体像)



高等学校国語科の改訂の方向性（案）

《現行科目》



《改訂の方向性（案）》

必修
科目
(案)

【現代の国語(仮称)】

実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する科目

- 実社会・実生活における言語による諸活動に必要な国語の能力の育成
 - 例えば、
 - ・目的に応じて多様な資料を収集・解釈し、根拠に基づいて論述する活動
 - ・文学作品等を読んで、構成や展開、優れた表現などの効果について言葉の意味や働きに着目して批評する活動
 - ・根拠を持って議論し互いの立場や意見を認めながら集団としての結論をまとめる活動
- 等の重視

【言語文化(仮称)】

上代(万葉集の歌が詠まれた時代)から近現代につながる我が国の言語文化への理解を深める科目

- 我が国の伝統や文化が育んできた言語文化を理解し、これを継承していく一員として、自身の言語による諸活動に生かす能力の育成
- 古典(古文・漢文)だけでなく、古典に関わる近現代の文章を通じて、言語文化を、言葉の働きや役割に着目しながら社会や自分との関わりの中で生かすことのできる能力の育成

選択
科目
(案)

【論理国語(仮称)】

多様な文章等を多角的・多面的に理解し、創造的に思考して自分の考えを形成し、論理的に表現する能力を育成する科目

(主として、創造的・論理的思考の側面から「思考力・判断力・表現力等」を育成)

【文学国語(仮称)】

小説、随筆、詩歌、脚本等に描かれた人物の心情や情景、表現の仕方等を読み味わい評価するとともに、それらの創作に関わる能力を育成する科目

(主として、感性・情緒の側面から「思考力・判断力・表現力等」を育成)

【国語表現(仮称)】

表現の特徴や効果を理解した上で、自分の思いや考えをまとめ、適切かつ効果的に表現して他者と伝え合う能力を育成する科目

(主として、他者とのコミュニケーションの側面から「思考力・判断力・表現力等」を育成)

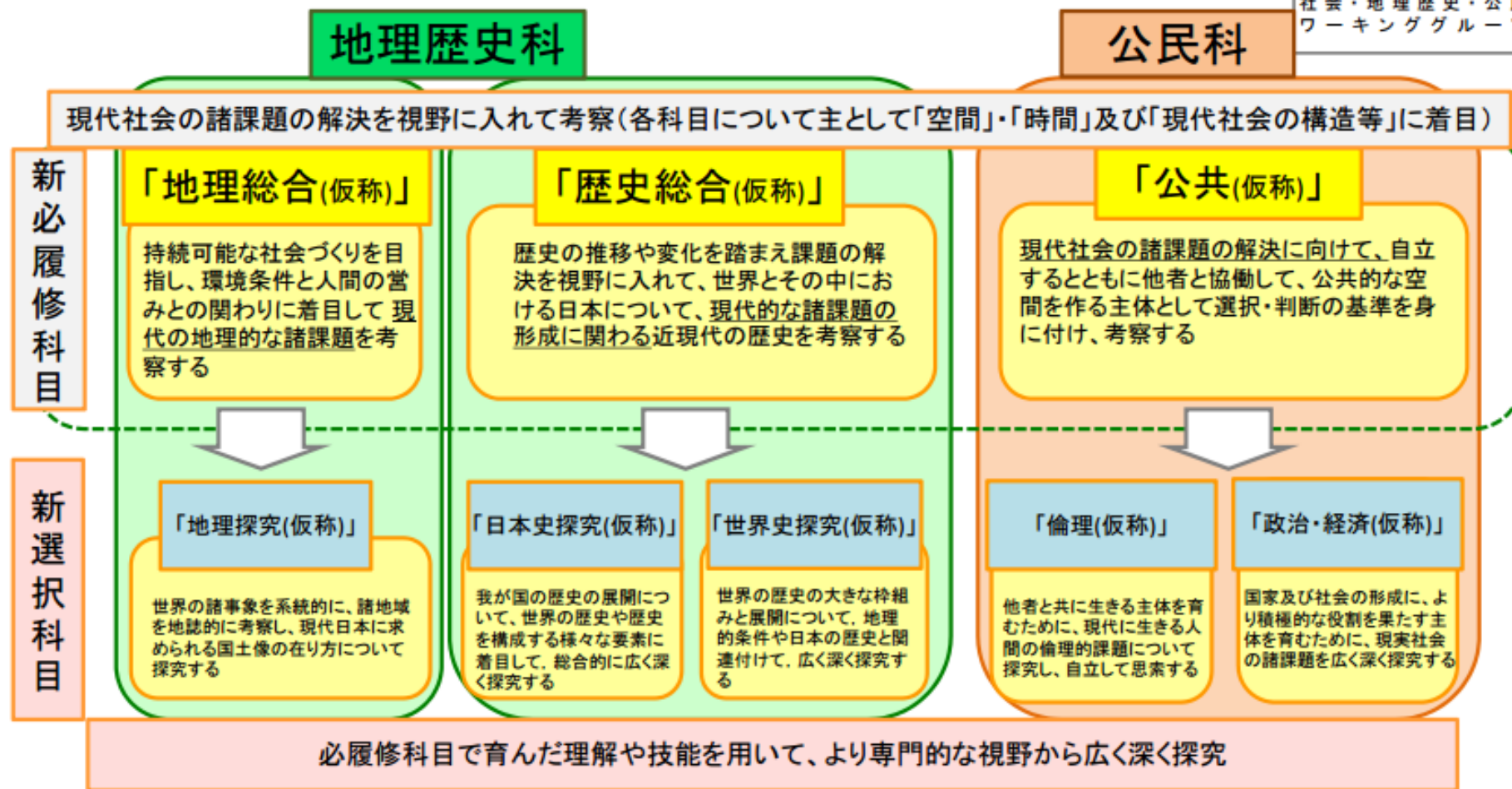
【古典探究(仮称)】

古典を主体的に読み深めることを通して、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究する科目

(ジャンルとしての古典を学習対象として「思考力・判断力・表現力等」を総合的に育成)

高等学校地理歴史科、公民科に置かれる各科目のイメージ（案）

平成28年7月19日
教育課程部会
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ



※ 地理歴史科については、新必修科目の名称としては、両者を習得することによって当該教科の高等学校における目標を達成するために必要とされる資質・能力を育む科目として両科目に「総合」を付すとともに、生徒の興味・関心や進路等に応じて「総合科目」を基盤に、より専門的な視野から考察を深め、探究を行う科目について「探究」を付すこととはどうか。

※ 公民科については、自立した主体として他者と協働して社会に参画し、公共的な空間を作る主体を育むことを目指す科目の内容を端的かつ適切に示すことが可能なものとして「公共(仮称)」とするとともに、選択科目については地理歴史科と同様に探究を行う科目であるが、学習対象である「倫理」については「探究」がその本質的な内容の一部であることから、「倫理探究」といった科目名はなじまず、また、「政治・経済」のみに「探究」を付すことは、同一教科に置かれる同一の性格を持つ科目の名称について混乱させるおそれもあることから、「倫理(仮称)」、「政治・経済(仮称)」とすることとはどうか。

16

高等学校学習指導要領における「歴史総合（仮称）」の改訂の方向性②（案）

平成28年7月7日 教育課程部会
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ

現行歴史系A科目

資質・能力

新必修科目「歴史総合（仮称）」

世界史A

- 1 世界史へのいざない
- 2 世界の一体化と日本
- 3 地球社会と日本

関連付け

日本史A

- 1 私たちの時代と歴史
- 2 近代の日本と世界
- 3 現代の日本と世界

【参考】

- ・現行中学校社会科の歴史的分野の学習では、我が国の歴史の大きな流れの理解をわらいとしている。（各時代の特色を捉える学習他）
- ・歴史の大きな転換に着目し、単元の基軸となる問いを設け、資料を活用しながら、歴史の学び方を習得する。
- ・考察を深める問いについては、取り上げる時期を広げて設定したり、多様な地域を視野に入れて設定したりすることが考えられる。

○世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史の理解、諸資料から情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能

○諸事象等の意味や意義、特色

世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する科目

や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に関わる諸課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力

○主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究しようしたり、よりよい社会の実現を視野に世界とそこにおける日本の在り方について歴史的な観点から意欲的に追究しようしたりする態度 など

○ 歴史の扉

中学校社会科の学習を振り返り、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を題材に、歴史を学ぶ意義や歴史の学び方について考察する など

○ 近代化と私たち

近代化の前の各地域の状況（例えばアジアを舞台とする日本と世界の商業や交易など）について触れ導入とし、産業社会と国民国家の形成を背景として人々の生活や社会の在り方が変化したことを扱い、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史の諸事象について考察する など

○ 大衆化と私たち

大衆の社会参加の拡大により、人々の生活や社会、国際関係の在り方が変化したことを扱い、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史の諸事象について考察する など

○ グローバル化と私たち

グローバル化する国際社会を背景として人々の生活や社会、国際関係の在り方が変化したことを扱い、現代社会を理解し、持続可能な社会の在り方を展望する など

現代的な諸課題につながる歴史的な状況（例）

「自由と制限」
「富裕と貧困」

「対立と協調」

「統合と分化」
「開発と保全」
など

取り上げることが考えられる題材

…アジア域内貿易、産業/市民革命、近代科学、立憲政治、議会制民主主義（代議制民主主義）、資本/社会主義、明治維新、政党政治、国民国家、国民文化、ジャポニズム、消費社会、マスコミ、教育、移民、帝国主義、総力戦、植民地、大正デモクラシー、国際協調、世界/昭和恐慌、全体主義、冷戦、地域紛争、地域統合、ナショナリズム、難民、高度経済成長、多国籍企業、市場経済、情報通信技術（ICT）…など

「地理総合（仮称）」において重視する思考力等と授業イメージ（案）

平成28年7月7日
教育課程部会
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ

項目構成（案）

重視する思考力、判断力、表現力等

問いと授業展開のイメージ

「地理総合」（仮称）

(1) 地図と地理情報システムの活用

- 地図上に表された事象と実際のできごとを関連付けて考察する力
- 考察したことを、目的に応じて地図等にまとめ、効果的に説明する力

(2) 国際理解と国際協力

ア生活・文化の多様性と国際理解

- 自然環境等に対応した世界の多様な生活・文化の意味や意義を理解し、自他の文化を尊重しつつ考察する力
- 考察したことを、資料を踏まえて説明する力

イ地球的な諸課題と国際協力

- 地球規模で見られる諸課題（環境、資源・エネルギー、人口、食料、住居・都市、民族・領土等）について多面的・多角的に考察する力
- 考察したことを、根拠を明確にして議論する力

(3) 防災と持続可能な社会の構築

ア自然環境と災害対応

- 国内各地の自然環境とそこで現れる災害の傾向性を関連付けて課題を把握し、多面的・多角的に考察する力
- 考察したことを、資料にまとめて説明する力

イ生活圏の調査と持続可能な社会づくり

- 生活圏に見られる課題について、その背景や要因等の分析に基づき、様々な解決策を吟味し、構想する力
- 構想したことを、実現可能性を指標に議論する力

「社会的事象の地理的な見方・考え方」を働かせた授業展開

⑦ なぜ出生率と、人口増加率は一致しないのだろう

出生率の高い地域が必ずしも人口増加率が高いわけではないことを、GISを用いて階級区分図の重ね合わせを行い、その地域的な要因を考察する。〔他に、統計資料の分析、主題図の作成などの主題を設定〕

⑧ どうしてアンデスでは、湖上で生活する人々がいるのだろう

アンデス高地の地形や気候等の自然環境の特徴から、湖上で生活する理由を見出し、生活の多様性とその必然性について考察させ、異文化理解を図る。〔他に、衣・食や宗教などの主題〕

⑨ なぜウガンダでは、生産性で劣る陸稲が生産されているのだろう

食料難に悩むウガンダに対して、どのような手段で食料増産を促すための支援が可能なのか。支援で直面した課題とその要因を探り、国際協力の在り方について考察する。〔他に、地球温暖化対策などの主題〕

⑩ ハザードマップを読んで、私たちの町の防災について考えよう

複数のハザードマップから地域の自然環境の特徴を読み取り、その情報を比較、関連付けて、各地域で想定される災害を考え、地域ならではの対応策を考察する。〔他に、災害復旧・復興、都市計画などの主題〕

⑪ フードデザート解消のため、どのようなまちづくりを目指すべきか

中心業務地区の衰退等を背景に、今後どのようなまちづくりを行うべきか、地域調査により収集した諸資料を分析し、分析結果を踏まえた生活圏の在るべき姿を構想する。〔他に、環境対策などの主題〕

<補足；「学習の系統性、段階性」>

- ・(1)の学習によって培った地理的な技能を、後の(2)、(3)の学習や他教科・科目等の学習において実践的に活用する。
- ・(2)と(3)のそれぞれ「ア」で把握、考察したことを基に、「イ」で議論、構想する。
- ・(2)で学んだ諸課題への対応策を、(3)の生活圏の諸課題解決の構想に生かす。(Think Globally, Act Locally)

高等学校学習指導要領における「公共（仮称）」の改訂の方向性（案）

平成28年7月19日
教育課程部会
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ

新必修科目「公共（仮称）」

資質・能力

- 現代社会の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論の理解、及び諸資料から、倫理的、政治的、経済的、法的、様々な情報の発信・受信主体等となるために必要な情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能
- 選択・判断するための手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、現代の社会的事象や現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に協働的に考察し、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして論拠を基に議論する力
- 現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に積極的な役割を果たそうとする自覚など

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせて、右の資質・能力を育む

考えられる
学習活動の例

討論、ディベート、模擬選挙、模擬投票、模擬裁判、インターンシップの事前・事後の学習 など

関係する
専門家・機関

選挙管理委員会、消費者センター、弁護士、NPO など

(1)「公共」の原

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成

⇒ 自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、他者との協働により国家や社会など公共的な空間を作る主体であるということを学ぶとともに、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論、公共的な空間における基本的原理を理解し、(2)、(3)の学習の基盤を養う。

ア 公共的な空間を作る私たち

⇒ 今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえ、①「様々な立場や文化等を背景にして社会が成立していること」、②「自立した主体とは何か」を問い、自らを成長させることや、対話を通じてお互いを理解し高め合うこと」の両者によって公共的な空間を作り出していくことについて学ぶ。

倫理的主体となる私たち

イ 公共的な空間における人間としての在り方生き方

⇒ 社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として、行為の善さを個人が判断するための手掛かりとなる、①「その行為の結果である、個人や社会全体の幸福を重視する考え方」と②「その行為の動機となる人間的責務としての公正などを重視する考え方」について理解させる。その際、行為の結果について、多面的・多角的に考えていくことが重要であることなどの留意点についても指導する。

ウ 公共的な空間における基本的原理

⇒ 個人と社会との関わりにおいて、個人の尊重を前提に、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保をともに図ることなどの公共的な空間における基本的原理について理解させる。その際、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務、相互承認などを取り上げる。

(2)自立した主体として国家・社会の形成に参画し、他者と協働するために

⇒ 小・中学校社会科で習得した知識等を基盤に、(1)で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理等を活用して現実社会の諸課題を自ら見出し、考察、構想するとともに、協働の必要理由、協働を可能とする条件、協働を阻害する要因などについて考察を深める。その際、公共的な空間を支える様々な制度の改善を通じてよりよい社会を築く自立した主体として生きるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力及び態度を養い、(3)の学習が効果的に行われるよう課題意識の醸成に努めるようにする。

ア 政治的主体となる私たち

＜題材の例＞
政治参加、世論の形成、地方自治、国家主権（領土を含む）、国際貢献…

イ 経済的主体となる私たち

財政と税、社会保障、市場経済の機能と限界、雇用、労働問題（労働関係法制を含む）…
職業選択、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり…

多様な契約、メディア、情報リテラシー、男女共同参画…

（ア～エのうち二つ、あるいは三つが複合的に関連し合う題材を取り扱うことが考えられる）

ウ 法的主体となる私たち

裁判制度と司法参加…

エ 様々な情報の発信・受信主体となる私たち

消費者の権利や責任、契約…

情報モラル…

※ 様々な主体となる個人を支える家族・家庭や地域等にあるコミュニティ

⇒ 世代間協力・交流、自助・共助・公助等による社会的基盤の強化

(3)持続可能な社会づくりの主体となるために

⇒ (1)で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理等を活用するとともに、(2)で行った課題追究的な学習で扱った現実社会の諸課題への関心を一層高め、個人を起点として、自立、協働の観点から、今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえつつ多様性を尊重し、合意形成や社会参画を視野に入れながら持続可能な地域、国家・社会、国際社会づくりに向けた役割を担う主体となることについて探究を行う。

ア 地域の創造への主体的参画

イ よりよい国家・社会の構築への主体的参画

ウ 国際社会への主体的参画

＜題材の例＞ 公共的な場づくりや安全を目指した地域の活性化、受益と負担の均衡や世代間の調和がとれた社会保障、文化と宗教の多様性、国際平和、国際経済格差の是正と国際協力… などについて探究

家族・家庭、生涯の生活の設計や消費生活等に関する個人を起点とした自立した主体となる力を育む家庭科、横断的・総合的な学習や探究的な学習を行う総合的な探究の時間（仮称）などと連携

※ 「公共（仮称）」においては、教科目標の実現を見通した上で、キャリア教育の観点から、特別活動などと連携し、経済、法、情報発信などの主体として社会に参画する力を育む中核的機能を担うことが求められる。
※ 取り上げる事象については、生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示することなどが求められる。その際、特定の事柄を強調しすぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど、特定の見方や考え方に偏った取扱いにより、生徒が多面的・多角的に考察し、事実を客観的に捉え、公正に判断することを妨げるものがないよう留意すること。また、客観的かつ公正な資料に基づいて指導するよう留意すること。

数学

資料1: 育成すべき資質・能力

知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
●探究の過程全体を自ら遂行するための知識・技能 例：研究テーマの設定方法 先行研究の調査方法 研究計画の立案方法 研究の進め方 データの処理、分析 研究成果のまとめ方 研究成果の発表方法 についての知識・技能 ●既に有している知識・技能の活用及び個別の探究を通じて得られるそれぞれの内容に関する知識や探究に関する技能 ●探究を通して新しい知見を得る意義についての認識 ●研究倫理（生命倫理等を含む。）についての基本的な理解	●教科・科目の枠にとらわれない多角的・多面的、複合的な視点で事象をとらえ、科学的・数学的な課題として設定することができる力 ●数学的な見方・考え方や理科における見方・考え方を豊かな発想で活用したり、組み合わせたりできる力 ●多様な価値観や感性を有する人々との議論等を積極的に行い、それを基に多角的・多面的に思考する力 ●探究を通して課題解決を実現するための能力 例：観察・実験デザイン力 構想力 実証的に考察する力 論理的に考察する力 分析的に考察する力 統合的に考察する力 文章にまとめる力 発表・表現力	●様々な事象に対して知的好奇心を持って科学的・数学的に捉えようとする態度 ●科学的、数学的課題や事象に徹底的に向き合い、考え抜いて行動する態度 ●探究の過程において、適宜見通しを立てたり、学習内容を振り返ったりするとともに、新たな疑問を抱き、次につなげようとする態度 ●新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度 ●主体的・自律的に探究を行っていくために必要な、研究に対する倫理的な態度

1

高等学校「理数探究（仮称）」の方向性（案）

現状・課題

- 算数・数学や理科を学ぶ楽しさ、これらの学習に対する児童生徒の意識は諸外国と比べ肯定的な回答割合が低い。
- 「数学活用」や「理科課題研究」における課題研究等の活動は、生徒の学習に対する興味・関心・意欲の向上や知識・技能の着実な習得、思考力・判断力・表現力等の育成に有効だが、開設率が低い状況。（1割未満）
- スーパーサイエンスハイスクール（SSH）で設定されている「課題探究」等の探究的な科目は、数学と理科で育成された能力を統合し、課題の発見・解決に探究的に取り組むことで教育効果が高い。

基本原理

- ①教科の枠にとらわれない多角的、多面的な視点で事象を捉え、
 ②数学や理科における見方・考え方を活用したり組み合わせたりしながら、
 ③探究的な学習を行うことを通じて、
 ④新たな価値の創造に向けて粘り強く挑戦する力の基礎を培う

資質・能力

- 探究の過程全体を自ら遂行するために必要な知識・技能
 ○研究倫理についての基本的な理解
 ○多様な価値観や感性を有する人々との議論等を通じて多角的・多面的に思考するとともに、探究の過程全体を自ら遂行することができる力
 ○数学や理科に関する課題や事象に徹底的に向き合い考え抜いて行動する態度

教科「理数」における選択科目として以下の2科目を新設

新科目案

理数探究基礎（仮称）

- 探究の進め方等に関する基礎的な知識・技能、探究する意義の理解、主体的に探究に取り組む態度等を身に付ける

理数探究（仮称）

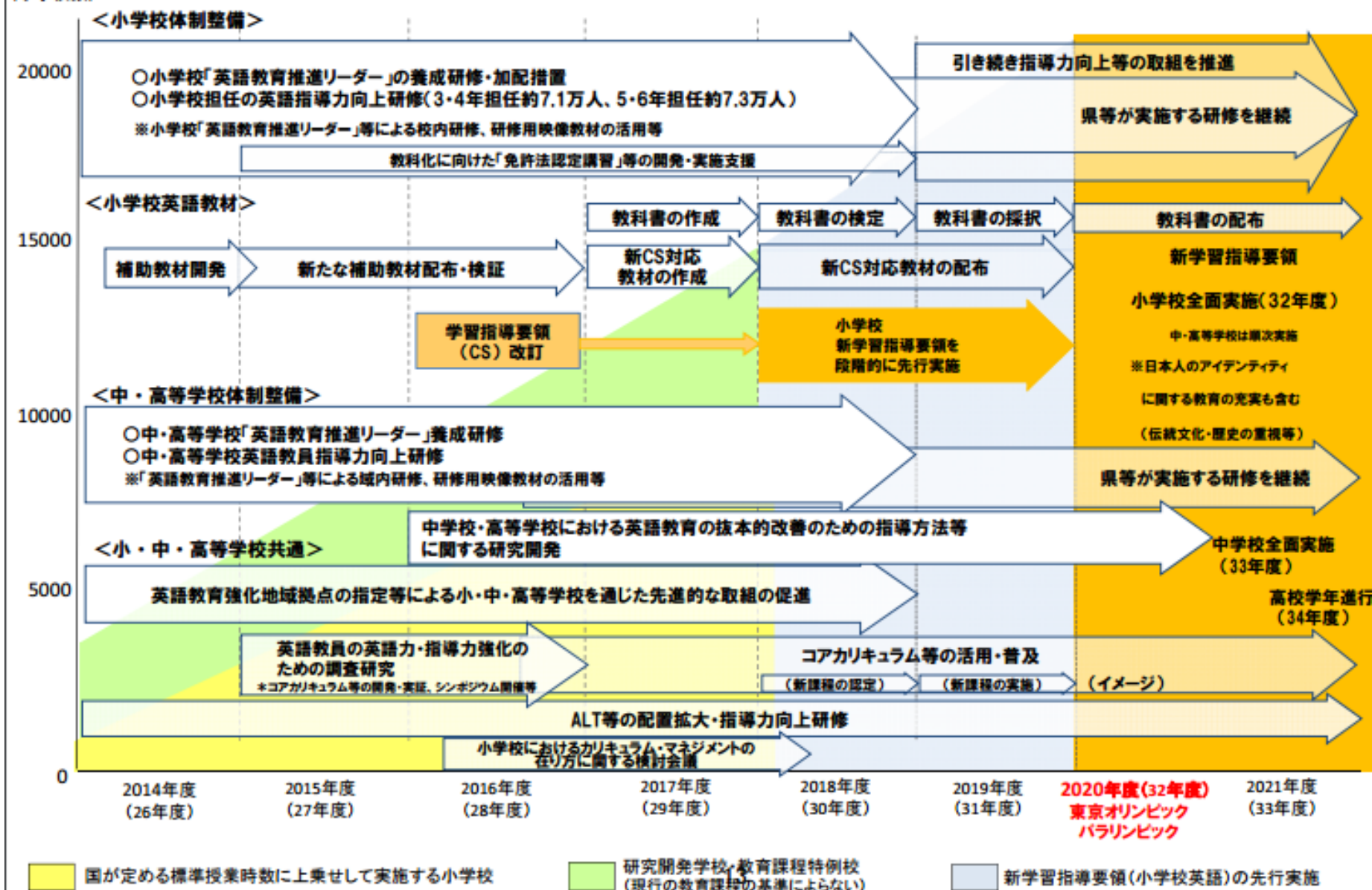
- 基礎で身に付けた資質・能力を活用して自ら課題を設定し探究の過程全体を行わせる

・評価に当たっては、新たな知見の有無などの探究の成果よりも、課題を発見して結論をまとめるまでの一連の探究過程を重視
 ・「探究ノート」等を通じて生徒の独創的な思考や探究過程における態度を評価

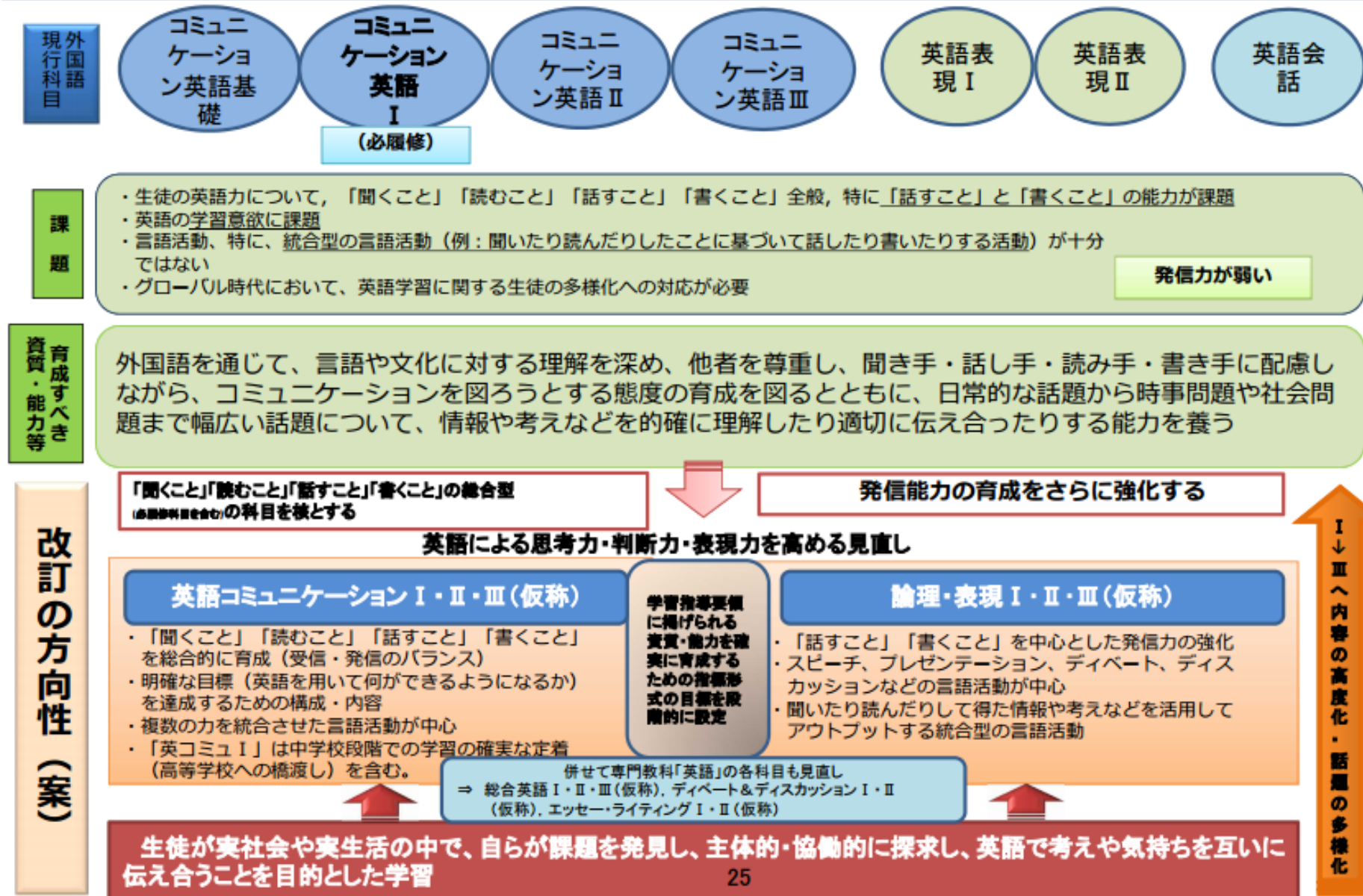
将来、科学技術分野等の第一線で活躍する人材を育成

グローバル化に対応した英語教育改革実施計画スケジュール(イメージ)

(小学校数)



高等学校における英語科目の改訂の方向性として考えられる構成（たたき台）



情報科新科目のイメージ（案）

「情報Ⅰ（仮称）」（情報と情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方を育成する共通必修科目）

問題の発見・解決に向けて、事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報技術を適切かつ効果的に活用する力を育む科目

（項目の構成案）

(1) 情報社会の問題解決	中学校までに経験した問題解決の手法や情報モラルなどを振り返り、これを情報社会の問題の発見と解決に適用して、情報社会への参画について考える。
(2) コミュニケーションと情報デザイン	情報デザインに配慮した的確なコミュニケーションの力を育む。
(3) コンピュータとプログラミング	プログラミングによりコンピュータを活用する力、事象をモデル化して問題を発見したりシミュレーションを通してモデルを評価したりする力を育む。
(4) 情報通信ネットワークとデータの利用	情報通信ネットワークを用いてデータを活用する力を育む。

「情報Ⅱ（仮称）」（発展的な内容の選択科目）

「情報Ⅰ（仮称）」において培った基礎の上に、問題の発見・解決に向けて、情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用し、あるいは情報コンテンツを創造する力を育む科目

（項目の構成案）

(1) 情報社会の進展と情報技術	情報社会の進展と情報技術との関係について歴史的に捉え、AI等の技術も含め将来を展望する。
(2) コミュニケーションと情報コンテンツ	画像や音、動画を含む情報コンテンツを用いた豊かなコミュニケーションの力を育む。
(3) 情報とデータサイエンス	データサイエンスの手法を活用して情報を精査する力を育む。
(4) 情報システムとプログラミング	情報システムを活用するためのプログラミングの力を育む。
○ 課題研究	情報Ⅰ（仮称）及び情報Ⅱ（仮称）の(1)～(4)における学習を総合し深化させ、問題の発見・解決に取り組み、新たな価値を創造する。

27

情報科各科目の項目構成の考え方

項目(1)

- ・情報社会との関わりについて考える
- ・問題の発見・解決に情報技術を活用することの有用性について考える

※項目(2)～(4)の導入として位置付ける

項目(2)～(4)

- ・コンピュータや情報システムの基本的な仕組みと活用に関する内容、コミュニケーションのための情報技術の活用に関する内容、データを活用するための情報技術の活用に関する内容で構成する

- ①(各項目に応じた)情報、情報技術や問題解決の手法等を理解する
- ②問題の発見・解決に情報技術を活用するとともに、自らの情報活用を評価・改善する

※②においては、①において習得した知識の概念化を図るほか、問題の発見・解決に情報技術を活用する能力の向上、情報社会に参画する態度の育成を図る

※主として②において、情報科における「見方・考え方」を働かせるとともに成長させる

※必ずしも①、②の順に学習するものではなく、「情報科の学習過程のイメージ(案)」に示すように、学びのつながりと広がりとを意図して、情報や情報技術等に関する知識の習得と、それらの知識の問題発見・解決への活用を並行して行うことも考えられる

小学校段階におけるプログラミング教育の在り方について（議論の取りまとめ）

平成28年7月11日
教育課程部会
教育課程企画特別部会
参考資料2

プログラミング教育の必要性の背景

- ・近年、飛躍的に進化した人工知能は、所与の目的の中で処理を行う一方、人間は、みずみずしい感性を働かせながら、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかなどの目的を考え出すことができ、その目的に応じた創造的な問題解決を行うことができるなどの強みを持っている。こうした人間の強みを伸ばしていくことは、学校教育が長年目指してきたことでもあり、社会や産業の構造が変化し成熟社会に向かう中で、社会が求める人材像とも合致するものとなっている。
- ・自動販売機やロボット掃除機など、身近な生活の中でもコンピュータとプログラミングの働きの恩恵を受けており、これらの便利な機械が「魔法の箱」ではなく、プログラミングを通じて人間の意図した処理を行わせることができるものであることを理解できるようにすることは、時代の要請として受け止めていく必要がある。
- ・小学校段階におけるプログラミング教育については、コーディング（プログラミング言語を用いた記述方法）を覚えることがプログラミング教育の目的であるとの誤解が広がりつつあるのではないかと指摘もある。

プログラミング教育とは

子供たちに、コンピュータに意図した処理を行うように指示することができるということを体験させながら、将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる力としての「**プログラミング的思考**」などを育成するもの

プログラミング的思考とは

自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを**論理的に考えていく力**

プログラミング教育を通じて目指す育成すべき資質・能力



【知識・技能】

（小）身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くこと。

【思考力・判断力・表現力等】

発達の段階に即して、「**プログラミング的思考**」を育成すること。

【学びに向かう力・人間性等】

発達の段階に即して、コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養すること。

こうした資質・能力を育成する**プログラミング教育を行う単元**について、**各学校が適切に位置付け、実施**していくことが求められる。また、**プログラミング教育を実施する前提**として、**言語能力の育成や各教科等における思考力の育成**など、全ての教育の基盤として長年重視されてきている資質・能力の育成もしっかりと図っていくことが重要である。

【小学校段階におけるプログラミング教育の実施例】

総合的な学習の時間	自分の暮らしとプログラミングとの関係を考え、そのよさに気付く学び	音楽	創作用のICTツールを活用しながら、音の長さや高さの組合せなどを試行錯誤し、音楽をつくる学び
理科	電気製品にはプログラムが活用され条件に応じて動作していることに気付く学び	図画工作	表現しているものを、プログラミングを通じて動かすことにより、新たな発想や構想を生み出す学び
算数	図の作成において、プログラミング的思考と数学的な思考の関係やよさに気付く学び	特別活動	クラブ活動において実施

【実施のために必要な条件整備等】

- （１）ICT環境の整備
- （２）教材の開発や指導事例集の整備、教員研修等の在り方
- （３）指導体制の充実や社会との連携・協働

高等学校の総合的な学習の時間を、より探究的な時間となるよう位置づける

- ・ 探究する能力を育むための総仕上げとしての在り方を明確化し、名称も見直す（例えば「総合的な探究の時間」とする等）
- ・ 特定の分野を前提とせず、**実社会・実生活**から自ら見出した課題を探究することを通じて、より自分のキャリア形成の方向性を考えることにつなげる
- ・ 生徒が主体的に探究していくことを助ける教材等の作成も検討

【高等学校】

< 探究の見方・考え方 >

「各教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範かつ複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の複雑な文脈や自己の在り方生き方と関連付けて内省的に考えること」

◆学習指導要領で示す目標（イメージ）

探究の見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の在り方生き方を考えることを通して、次のとおり資質・能力を育成する。

- 課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得し、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、探究の意義や価値を理解するようにする
- 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を育成する
- 主体的・協同的（協働的）に課題を探究し、互いのよさを生かしながら、新たな価値の創造やよりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる

◆各学校が設定する目標：上記を踏まえ各学校が目標を設定し、その目標を踏まえた内容を定める。

→各学校の教育目標に直接つながり、その高校のミッションを体现するものとなるようにする

【中学校】

< 探究的な見方・考え方 >

「各教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の文脈や自己の生き方と関連付けて振り返り、考えること」

◆学習指導要領で示す目標（イメージ）

探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えることを通して、次のとおり資質・能力を育成する。

- 課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得し、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解するようにする
- 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を育成する
- 主体的・協同的（協働的）・探究的な学習に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する態度を育てる

【小学校】

◆各学校が設定する目標：上記を踏まえて、各学校が目標を設定し、その目標を踏まえた内容を定める。

各教科等の見方・考え方を、総合的な学習の時間で総合的に活用

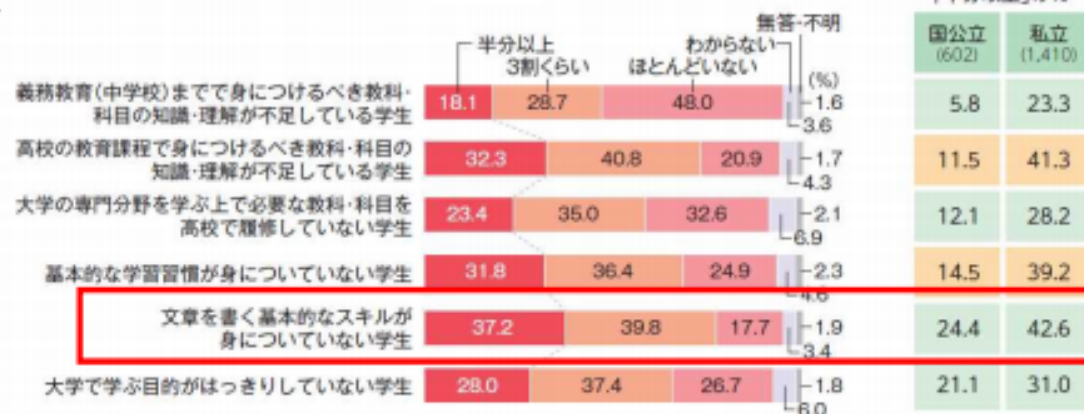
各教科等

各教科等の見方・考え方が、多様な文脈で使えるようになるなどして、確かなものになり、各教科等の「深い学び」を実現

大学入学者の学力・学習状況（特に文章を書く基本的なスキルの状況）

入学者の学力・学習の状況(全体)【大学】

Q: 貴学科の1年生についてお聞きます。貴学科の今年度の1年生で、次のような学生はどれくらいいますか。



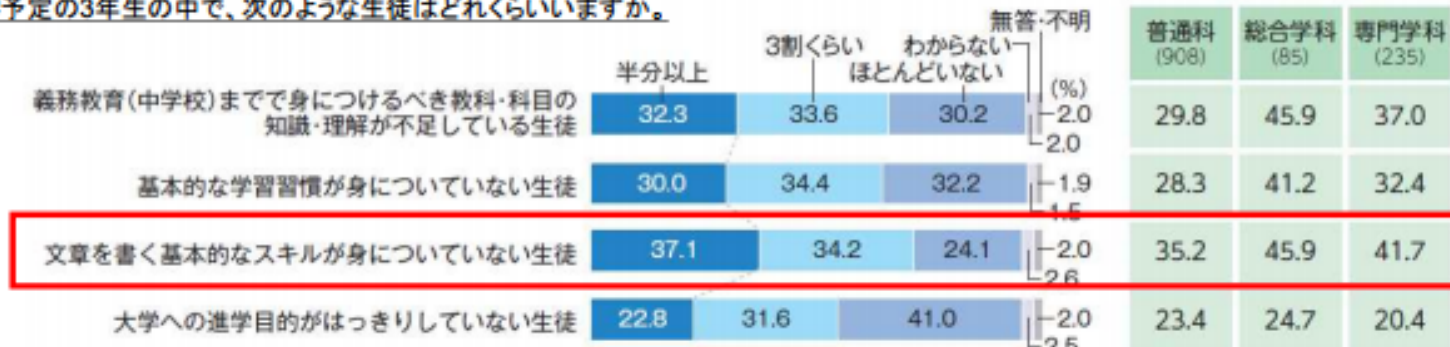
注1) 「半分以上」の割合は、「ほとんど全員」「7割くらい」「半分くらい」の合計の値。図1-2も同じ。

注2) 設置者別の表の黄色は、20ポイント以上の差があるものを表す。

四年制大学に進学予定の3年生の学力・学習の状況(全体)【高校】

Q: 貴校から四年制大学に進学する予定の生徒(3年生)についてうかがいます。

進学予定の3年生の中で、次のような生徒はどれくらいいますか。



(出典) ベネッセ教育総合研究所「高大接続に関する調査(2013年)」

【調査対象】
・全国の高等学校の校長
・全国の大学の学科長

【有効回答数】
・高校1,228名(配布数2,500通、回収率49.1%)
・大学2,012名(配布数5,060通、回収率39.8%)

【調査時期】
・2013年11月～12月

大学入試改革に関する調査結果③

(参考) 大学入試改革に関する調査 (文部科学省の委託により株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施)

- ◆ 調査期間：2016年2月3日（水）～2月9日（火）
- ◆ 調査対象：全国に居住する大学1年生／短期大学1年生の男女のうち、「一般入試」もしくは「センター試験利用入試」のいずれか、もしくは両方を通して合格・入学した者 500名
- ◆ 調査方法：インターネットリサーチ

◆ 高大接続システム改革会議（第9回）で示した記述式問題イメージ例について、質問項目に対する「そう思う」のスコアをみると、

- 1位 「暗記中心の勉強だけだと対応できない」 73%
- 2位 「正確な採点をしてくれるかどうか不安だ」 68%
- 3位 「自分で組み立てて書くのが面倒だ」 55%

◆ 「そう思わない」のスコアをみると、「これまでの問題とあまり変わらない」が51%。

■試験問題サンプルの印象(全体／各単一回答)

「(条件付)記述式」テストは、以下のような問題です。こちらを読んで、あなたはどのような印象を持ちましたか。以下にあげる項目について、どの程度そう思うかをお答えください。

	そう思う		どちらとも いえない	そう思わない		そう思う	そう 思わない
	とてもそう思う	ある程度 そう思う		あまり そう思わない	まったく そう思わない		
(n= 500) ●凡例							
これまでの問題とあまり変わらない	7.2%	15.4	26.0	35.6	15.8	22.6	51.4
自分で組み立てて書くのが難しい	10.4	36.2	27.8	21.2	4.4	46.6	25.6
自分で組み立てて書くのが面倒だ	14.6	40.8	26.4	13.8	4.4	55.4	18.2
選択肢がないと不安だ	14.6	35.8	24.2	18.8	6.6	50.4	25.4
自分は苦手な問題だ	15.0	22.2	32.6	22.6	7.6	37.2	30.2
学校ではこうした問題の考え方は習っていない	14.6	29.8	32.4	16.6	6.6	44.4	23.2
学校の勉強だけでは答える力が身につかない	15.4	29.8	32.2	15.2	7.4	45.2	22.6
学校の勉強をしっかりとすれば問題ない	9.6	24.6	35.2	23.6	7.0	34.2	30.6
暗記中心の勉強だけだと対応できない	34.2	39.2	20.2	4.0	2.4	73.4	6.4
正確な採点をしてくれるかどうか不安だ	33.6	34.4	21.8	7.0	3.2	68.0	10.2

大学入試改革に関する調査結果①

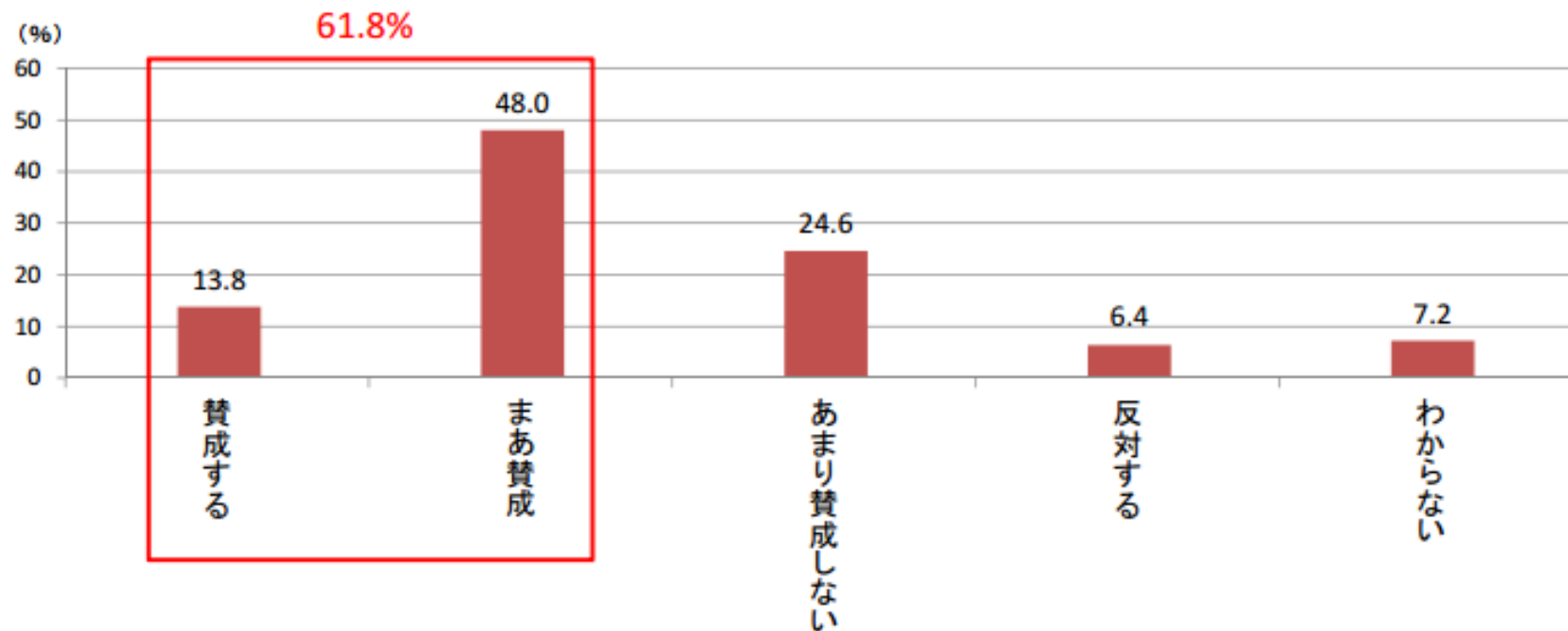
(参考) 大学入試改革に関する調査(文部科学省の委託により株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施)

- ◆ 実査期間: 2016年2月3日(水)～2月9日(火)
- ◆ 調査対象: 全国に居住する大学1年生/短期大学1年生の男女のうち、「一般入試」もしくは「センター試験利用入試」のいずれか、もしくは両方を通過して合格・入学した者 500名
- ◆ 調査方法: インターネットリサーチ

◆ 「(条件付)記述式」問題増加に「賛成する」「まあ賛成」と回答した者は62%。

■ 「(条件付)記述式」問題増加への賛否(全体/単一回答)

Q. 「(条件付)記述式」の問題が増えることについて、あなたはどのように思いますか。



大学入試改革に関する調査結果②

(参考) 大学入試改革に関する調査 (文部科学省の委託により株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施)

- ◆ 調査期間：2016年2月3日(水)～2月9日(火)
- ◆ 調査対象：全国に居住する大学1年生/短期大学1年生の男女のうち、「一般入試」もしくは「センター試験利用入試」のいずれか、もしくは両方を通過して合格・入学した者 500名
- ◆ 調査方法：インターネットリサーチ

◆ 賛成理由のトップは、「記述式の方が能力を正確に評価してもらえるから」51%。

ー「大学で勉強や研究を進める上で、必要な力が身につくそうだから」41%、「表現できる力が身につくそうだから」31%で続く。

■「(条件付)記述式」問題増加への賛成理由

Q. 前の質問で、あなたが「賛成」または「まあ賛成」と回答した理由はどのようなものですか。

